

306-23



1200501369198

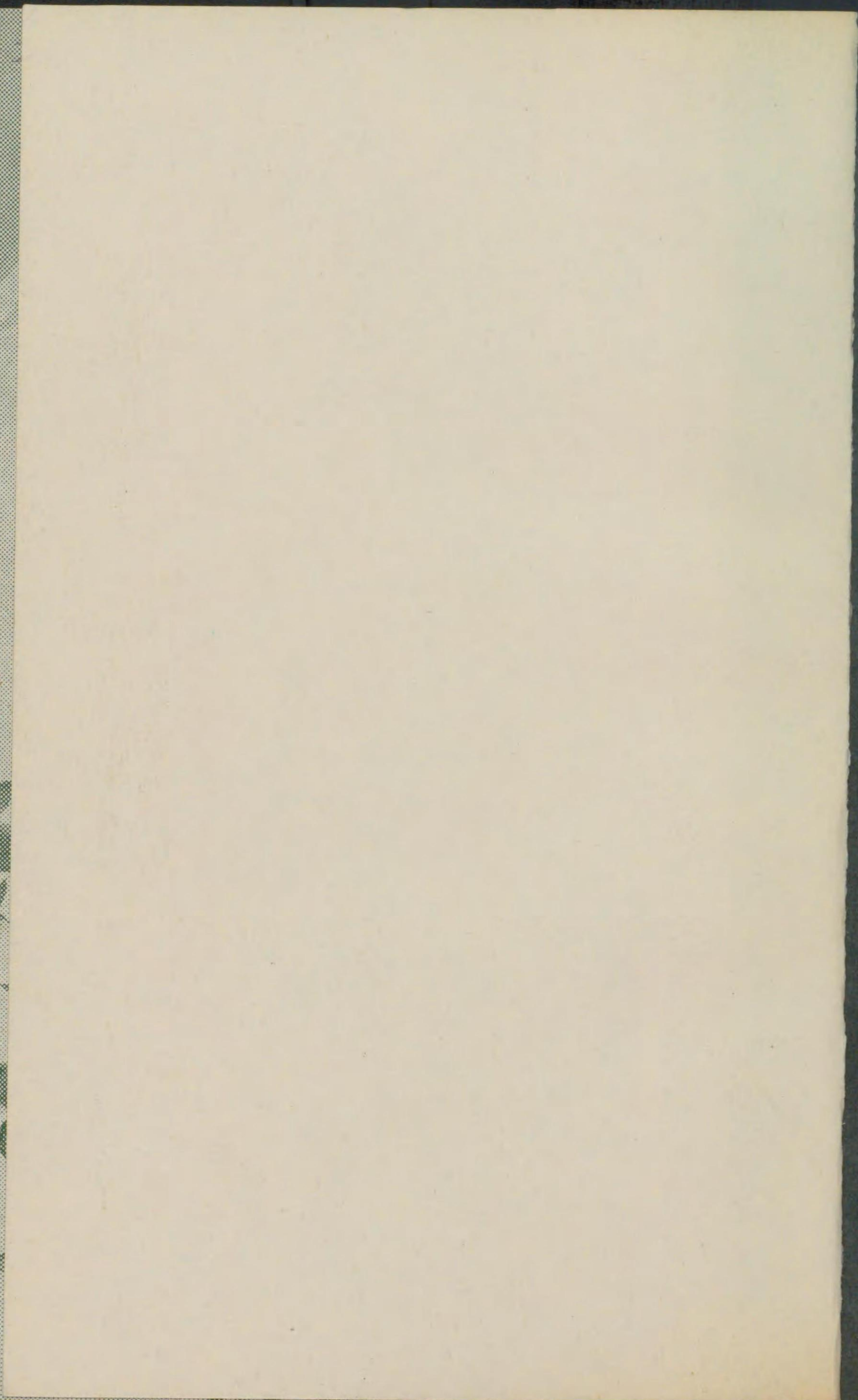
306
23



複写



2120-

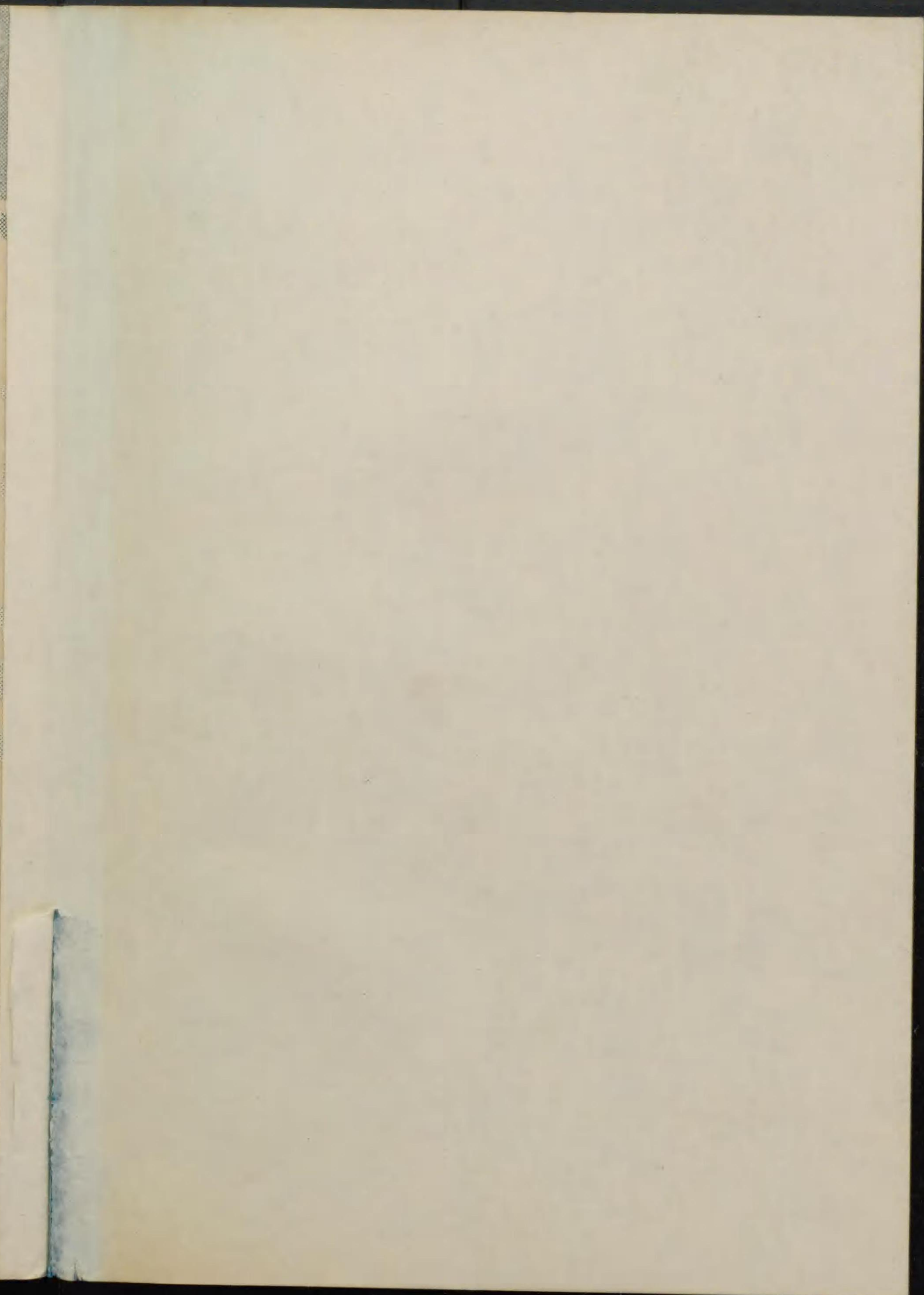
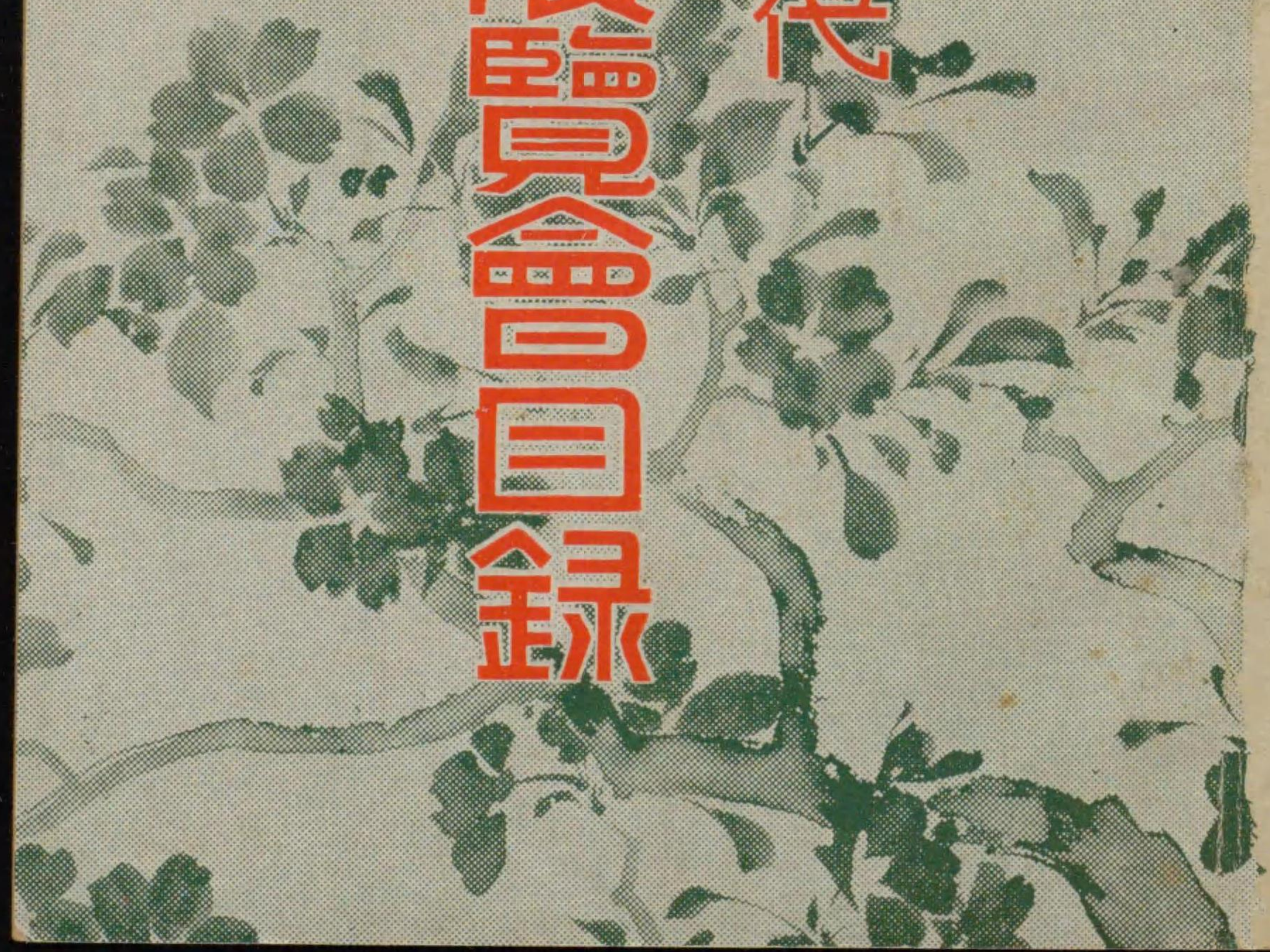


工本24-20

306
23

明治大正昭和三聖代
名作美術展覽會目錄

納本



自昭和十二年四月廿五日
至昭和十二年五月廿五日



大阪朝日新聞 二萬號記念

明治 昭和

三聖代名作美術展目錄



會場 大阪市立美術館
主催 大阪朝日新聞社
協贊 大阪朝日新聞社

715

306

220

23

目

次

一 御	一 宮家御貸下品	一 日本畫	一 西洋畫	一 彫刻	一 美術工藝
.....
一	五〇二	四	五一	一〇七	一二八

凡例

- 一、本目録は明治より大正を経て昭和十年に至る七十年間の日本畫、洋畫、彫刻及び工藝の名作を網羅した三聖代名作美術展覽會出陳の總目録である。
- 一、陳列品は評議員會の詮衡に基き、現存の作者には意向を質して決定したものである。
- 一、記載順序は年代順とし、同年のものは五十音順によつた。但し、工藝品は年代順によることを得なかつたので單に五十音順にとゞめた。

昭和十二年四月廿五日

大阪朝日新聞社

御物



1 孔雀圖大 幅 一軸 故荒木寛畝筆

2 青綠山水圖 幅 一軸 故山岡米華筆

荒木寛畝は天保五年江戸に生れ、本姓は田中、文晁派の荒木寛快に就いて學び、擢んでられてその後をついだ。明治三十四年帝室技藝員となり、また東京美術學校教授、文展日本畫部の審査員であつた。最も花鳥を得意とし、幾多の大作をのこしてゐる。大正四年八十五の高齡を以て歿した。

山岡米華は慶應三年高知縣に生る。畫を名草逸峯に學び、書を公文修助に修む。書を以つて内閣賞勳局に奉仕し、のち畫名高く文展審査員に列す。大正三年歿、享年四十八。

閑院宮家御所藏

3 蒼 上 松 塵 (六曲 一双)

川合 玉堂筆

川合玉堂は横山大観、竹内栖鳳二氏とともに現邦畫壇三長老の一人。明治六年生。はじめ京都の榎嶺、玉泉に就き、のち東京に出てて雅邦に師事す。帝國美術院會員、帝室技藝員。

久邇宮家御所藏

4 瀛 洲 僊 境 群 僊 祝 壽

双幅 一 故富岡鐵齋筆

鐵齋名は百鍊、天保七年京都に生る。はじめ國漢の學を修め、のち畫を學ぶ。曾て神官たり。明治十五年以來彩管をとり巨然たる文人畫の大家となる。帝室技藝員、大正十三年歿、享年八十九。

朝香宮家御所藏

5 御 室 の 櫻 (六曲 一双)

故富田溪仙筆

(第二十回院展出品)
明治十二年博多に生る。都路華香に師事。日本美術院同人で、晩年帝國美術院會員となつたが、昭和十一年歿した。享年五十八。

李王家御所藏

6 細 雨 空 濛

川村 曼舟筆

明治十三年京都に生れ、山元春巖に師事し、大阪八年より帝展審査員となり、現に帝國美術院會員。京都繪畫專門學校校長である。

日本畫

(年代順に各項括弧内は制作の年を示す)

7 故 菊池容齋 爲

朝 (明治元年)

名は武保、字は定剛。肥後守武時の後なり。はじめ書を多田圓乘に學ぶ。諸派並に西洋畫法を折衷して一家を成す。「前賢故實」の著あり、明治天皇より日本畫史の稱を賜ふ。明治十一年歿、享年九十一。

8 故 岸 竹堂

大津 唐崎

東京 松本修三氏藏
(八曲) (明治九年)

(華府萬國博覽會出品受賞)

本姓寺居氏。岸連山の養子となり岸姓を冒す。はじめ狩野派を學び、のち連山に就く。山水は特に長ずるところ。帝室技藝員となる。明治三十年歿、享年七十二。

9 故 河鍋曉齋

花 鳥 圖

(明治十年代)

東京 帝室博物館藏

初めの號は狂齋、のち曉齋と改む。天保二年下總古河に生れ、國芳ら數家の風を折衷して一家をなす。明治二十二年歿、年六十二。遺著に「曉齋畫談」がある。

10 故 安田老山

雲 高 氣 靜

(明治十年)

東京 朝倉文夫氏藏

美濃の人。畫家を志して長崎に赴き、鐵翁に學ぶ。また支那に遊び、明治六年歸朝後は東京に住し、當時隨一の名を得。明治十五年五十五で歿した。

11 故 柴田是眞

瀑 布 圖

(六曲) (一雙) (明治十六年)

男 爵 岩崎小彌太氏藏

(是眞七十七歳の作)

對柳居と號す。江戸の人、文化四年生る。詩繪を古瀧寛哉に學び、繪は鈴木南嶺の弟子なり。第一回博覽會に妙技一等賞を得、第一回共進會には審査員となる。明治二十四年歿、享年八十五。

12 故 幸野楳嶺

帝釋試三獸圖

(明治十八年)

京都 幸野西湖氏藏

(遺族のために描ける遺作中の傑作)

弘化三年京都に生れ、中島來章、鹽川文麟に就き圓山四條の畫を學ぶ。後進の誘導に力を盡し門下に竹内栖鳳、菊池芳文、都路華香らがある。二十六年帝室技藝員となり、二十八年病歿、享年五十一。

13 故 幸野楳嶺

魯 秋 潔 婦

(明治十八年)

京都 竹内栖鳳氏藏

14 故 森 寬齋 京 人 形 (明治十八年)

(愛知縣繪畫共進會二等賞銀牌)
長州藩士。少時大阪に出で、書を養父徹山に學ぶ。維新の際國事に奔走し、明治初年再び書道に携はる。のち京都府畫學校に奉仕し、第二回博覽會には妙技賞牌を授けらる。二十三年帝室技藝員を命ぜられ、二十七年八十二で歿した。野村文舉、山元春舉はその門下である。

15 故 狩野芳崖 悲母觀音下圖 (卷物) (明治十七年—二十年)

東京美術學校藏

(未發表)

長門豐浦の人。文政十三年生る。書を父董信及び狩野雅信に學び、のち東京美術學校の創立に盡力し、明治二十一年開校に先だつて歿す。享年六十一。雅邦と共に明治邦畫壇の巨匠。

16 故 狩野芳崖 不動明王 (明治二十年)

東京美術學校藏

17 故 川邊御楯 南北朝合戰圖 (明治二十年代)

東京 帝室博物館藏

花陵と號す。筑後の人。書を父及び三善眞琴等に學ぶ。有職故實に通じてゐた。明治三十八年歿、年六十九。

18 故 狩野芳崖 悲母觀音 (明治二十一年)

東京美術學校藏

(芳崖一代の傑作、明治時代の代表的名作)

19 故 瀧 和亭 春溪仙隱圖 (明治二十二年)

千葉縣 茂木 佐平治 氏藏

南宗の大家。江戸の人。はじめ大岡雲峰に學び、長崎に遊びて鐵翁に従ひ清客と交る。最も花鳥に長ず。明治二十六年帝室技藝員となる。三十四年歿、享年七十二。

20 故 菅原白龍 溪山急雨圖 (明治二十三年)

東京 本間久雄氏藏

羽前の産。書を熊澤適山に受け、上京して「繪畫叢誌」に關係し、日本の南畫を作り、唐人物を描かなかつた。明治三十一年歿、享年六十六。

21 故 橋本雅邦 白雲紅葉 (明治二十三年)

東京美術學校藏

(第三回内國勲業博覽會一等賞)

勝國と號す。天保七年江戸木挽町に生る。書を父養邦及び狩野雅信に學び、のち父の業をつぐ。二十年文部省圖畫取調掛委員となり、東京美術學校開校とともに教授となる。明治畫壇最大の巨擘である。明治四十一年歿、時に年七十四。

22 故 森 寛齋 松 間 瀑 布 (明治二十三年)

京都 飯田新七氏藏

23 故 橋本雅邦 木 曾 眞 山 水 (明治二十六年)

大阪 伊藤忠兵衛氏藏

(シカゴ萬國博覽會出品)

24 故 渡邊省亭 群 鷄 (明治二十六年)

東京 帝室博物館藏

(シカゴ萬國博覽會出品)

嘉永四年生る。書を菊池容齋に學び、花鳥をよくす。第一回博覽會に花紋賞、第二回博覽會に妙技賞牌を得。大正七年歿、享年六十七。

25 故 田崎草雲 富 岳 の 圖 (明治二十七年)

足利織物同業組合藏

(草雲年八十歳の作)

名は芸、文化十二年生る。南北諸家の書を學ぶ。維新の際には勤王の士となり、晩年帝室技藝員にあげらる。明治三十一年八十四の高齡をもつて歿す。屢々朝景の富岳を描く。

26 村田 丹陵 小早川隆景破明軍圖 (明治二十七年)

男 爵 小早川四郎氏藏

(日本美術協會出品銅牌)

舊田安藩士の男、明治五年東京に生る。川邊御楯について土佐派を學ぶ。本圖は明治二十七年本壤戰勝の報いたるや、欣喜自ら禁する能はずして執筆したるもの。元毛利公の重寶の一であった。

27 故 川端玉章 荷 花 水 禽 圖 (明治二十七年頃)

東京美術學校藏

敬亭と號す。天保十三年生る。京都の人。中島來章に就き書を學び、山水花鳥をよくす。二十三年東京美術學校教授となり、のち帝室技藝員となる。門下に名を成せるもの多く、結城素明・平福百穂らあり。大正二年歿、享年七十二。

28 故 川端玉章 櫻 花 鷄 圖 (明治二十七年頃)

東京美術學校藏

29 故 野口幽谷 菊 鷄 圖 (明治二十八年)

男 爵 岩崎小彌木氏藏

(第四回内國勸業博覽會三等賞)

椿椿山の逸足。最も花鳥を得意とし、渾厚品致あり。晩年帝室技藝員となる。明治三十一年歿、享年七十四。

30 故 橋本雅邦 龍 虎 屏 風 (明治二十八年)

男 爵 岩崎小彌木氏藏

(第四回内國勸業博覽會出品、入賞せずして問題となれる傑作)

31 故 川端玉章 木 曾 八 景 (八幅) (明治二十九年)

侯 爵 大久保利武氏藏

(日本美術協會出品)

32 故 小堀鞆音 武 士 (明治三十年)

東京美術學校藏

(日本繪畫協會第二回共進會銅牌)

栃木縣生。川崎千虎を師とし、四十一年以來東京美術學校教授、帝國美術院會員、帝室技藝員として美術界の元老であつたが、昭和六年歿した。享年六十八。

33 故 小堀鞆音 維 盛 哀 別 (明治三十年)

公 爵 九條道秀氏藏

(日本美術協會展銀牌、安田靉彦はこれを見て鞆音の門に入れりといふ)

34 故 西郷孤月 花 鳥 (双幅) (明治三十年)

東京 帝室博物館藏

(日本繪畫協會共進會出品)

父は松本藩主。東京美術學校に學び、のち同校助教となる。一時春草、觀山、大觀らと名を等うした。大正元年歿、年四十。

35 故 原 在泉 足柄新羅三郎吹笙圖 (明治三十年頃)

京 都 原 在 寬 氏 藏

(京都博覽會出品)

京都の畫家。畫を父在照に學んで一家を成した。明治十三年京都府畫學校に出仕し、十五年内國繪畫共進會に出品、以來しばしば受賞す。大正五年歿、享年六十八。

36 故 望月玉泉 海 邊 千 鳥 圖 (明治三十年頃)

京 都 梅 原 長 兵 衛 氏 藏

天保五年京都に生る。畫を父玉川に學び、山水花鳥に妙を得、京都府畫學校建設に盡力して繪事功勞發狀を得たることあり。大正二年歿、年八十。

37 故 岸 竹堂 (中) 十六羅漢 (左、紅藥白狐) (三幅) (明治三十一年)

京 都 十 合 德 太 郎 氏 藏

(日本美術協會展受賞)

38 故 久保田米僊 半 偈 捨 身 (明治三十一年)

東 京 渡 邊 安 雄 氏 藏

(日本美術協會展金牌)

嘉永四年京都に生る。鈴木百年に就いて學び、幸野楳嶺らと京都府畫學校設立に盡力せしをもつて繪事功勞發狀を賜ふ。明治三十三年失明、三十九年歿す。享年五十五。

39 故 富岡永洗 井 筒 女 之 助 (明治三十一年)

東京 大橋 佐太郎 氏 藏

(日本畫會第一回展出品)

信州松代藩士。明治十五年小林永灌の門に入り一家を成し、小説挿繪類に一生面を拓く。明治三十八年歿、享年四十二。

40 故 田能村直入 名花十二客 (明治三十三年)

大阪 芝川 又四郎 氏 藏

畫を養父竹田に學び、また詩をよくす。京都府畫學校建設に盡力し、關西南宗畫界の牛耳をとる。明治四十年九十四の高齡を以て歿した。本圖は八十七歳の作。

41 故 梶田半古 春 宵 怨 (明治三十四年)

横濱 村田 徳治 氏 藏

(同年繪畫共進會出品代表作の一)

金工家政晴の男、明治三年生。かつて富山工藝學校教頭たり。大正六年歿、享年四十八。門下に小林古徑、前田青邨らがある。

42 故 寺崎廣業 秋 の 花 (明治三十五年)

東京 西川 大六 氏 藏

慶應二年秋田の家老の家に生れた。はじめ狩野派を學び、のち東京美術學校教授に任じ、文展第一回以來日本畫部審査員たり。大正六年帝室技藝員。同八年歿す

43 故 荒木寛畝 梅 月 (明治三十六年)

大阪 住友 吉左衛門 氏 藏

(第五回内國勸業博覽會出品)

44 故 野口小蘋 西 王 母 (明治二十三年)

野口 忠藏 氏 藏

弘化四年大阪に生る。阿波の人。京都に出でて日根對山に學ぶ。女流南畫家の第一人者。大正六年歿、享年七十一。

45 故 山元春舉 ロツキー山の雪 (明治三十八年)

京都 飯田 新七 氏 藏

明治四年大津に生れ、森寛齋の門に遊ぶ。京都繪畫專門學校及び美術工藝學校教授に任じ、文展第一回以來日本畫部審査員。大正六年帝室技藝員に擧げられ、八年帝國美術院會員となる。昭和八年歿、享年六十三。

46 木島 櫻谷 し ぐ れ (六曲) (明治四十年)

文 部 省 藏

(第一回文展二等賞)

明治十年京都に生る。今尾景年の門。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

47 西村 五雲 白

熊 (明治四十年)

東京 増田 義一氏藏

(第一回文展二等賞)

明治十年京都に生る。岸竹堂、竹内栖鳳に師事し、現に京都繪畫專門學校教授、帝國美術院會員である。

48 野田 九浦 辻 説 法

(明治四十年)

文部 省藏

(第一回文展二等賞)

明治十二年下谷に生る。寺崎廣業に學び、のち大阪朝日新聞社に入り、大正六年秋東京にかへる。十二年帝展審査員、帝國美術院參與。

49 故 野村文學 月下溪流圖

(明治四十年)

子爵 杉 七郎氏藏

(第一回文展出品)

安政元年京都に生れ、梅川東學、鹽川文麟、森寬齋に學ぶ。明治二十二年東京に移る。文展第二回より四回まで審査員であつた。明治四十四年歿、享年五十八。

50 町田 曲江 佛 陀 の 光 (双幅) (明治四十年)

長野 町田 清治氏藏

(東京博覽會出品)
明治十一年長野縣に生る。内海吉堂に就いたが、のち寺崎廣業に師事す。外遊二回、舊帝展審査員たること三回、同無鑑査。

51 上村 松園 月 影

(明治四十一年)

侯爵 細川 護立氏藏

(第二回文展三等賞)

明治八年生。鈴木松年、幸野棟嶺、竹内栖鳳に師事。舊帝展審査員、帝國美術院參與。

52 故 下村觀山 大 原 御 幸 (繪卷) (明治四十一年)

横濱 西郷 春子氏藏

(第一回國畫玉成會出品)

明治六年和歌山縣に生る。雅邦、芳崖に就き、東京美術學校第一回卒業生たり。のち同校助教教授に任ぜられたが、岡倉覺三氏に従つて辭し、日本美術院の創立に與る。のち文展第一回より審査員たりしも、大正元年大觀氏とともに辭して日本美術院を再興す。また帝室技藝員を命ぜらる。昭和五年歿す、享年五十八。

53 故 高橋廣湖 馬 上 の 譽 (六曲) (明治四十一年)

横濱 小島 周次郎氏藏

(第一回國畫玉成會出品)

明治八年熊本に生る。はじめ雪舟派の畫を學び、上京して松本風鶴の門に入り、廣湖といふ、四

十年第一回文展に未成品を出して通らず、落選展覧會を開きしは有名な事實である。明治四十五年歿、享年三十八。

54 安田 靱彦 守屋 大連 (明治四十一年)

侯爵 細川護立氏藏

(第一回國畫玉成會出品)

明治十七年東京に生る。小堀柄音の門に入り、東京美術學校に遊ぶ。岡倉覺三、橋本雅邦に知られ、守屋大連、夢殿などを描いて名聲あがる。帝室技藝員、院展同人、帝國美術院會員。

55 尾竹 國觀 油 斷 (六曲) (明治四十二年)

文部省藏

(第三回文展二等賞)

明治十三年新潟縣生。舊帝展無鑑査、第三回文展に二等賞を得たのは春草の「落葉」と本圖との二點であつた。

56 故 菱田春草 落 葉 (六曲) (明治四十二年)

侯爵 細川護立氏藏

(第三回文展二等賞、明治年間における名作中の名作)

信州飯田の人。はじめ結城正明に學ぶ。東京美術學校助教授となり、のち日本美術院に参加す。明治四十四年歿、享年三十九。

57 故 今村紫紅 伊 達 政 宗 (明治四十三年)

横濱 原 富太郎氏藏

(第十回紅兒會出品、紫紅三十一歳の作)

神奈川縣の人、明治十三年生。書を松本楓湖に學び、文展に出品してみたが、再興日本美術院の同人となり、大正五年三十七にして歿す。

58 故 尾竹竹坡 お と づ れ (明治四十三年)

文部省藏

(第四回文展二等賞)

新潟市に生る。越堂の弟、國觀の兄、文展に數回二等賞を得、帝展推薦となる。昭和十一年歿、享年五十九。

59 故 尾形月耕 奥澤九品佛來迎圖 (明治四十三年)

京東美術學校藏

(日英博覽會出品)

安政六年江戸に生る。菊池容齋の畫法により一派を成し、浮世繪派最後の大家たり。大正九年歿、享年六十三。山村耕花はその門下である。

60 故 菊池芳文 雀 (六曲) (明治四十三年)

京都 宮川久治郎氏藏

(第四回文展審査員出品)

大阪の人、文久二年生る。書を滋賀芳園、幸野棟嶺に學ぶ。京都繪畫專門學校教授、文展審査員であつたが、大正七年歿した。享年五十六。菊池契月氏はその愛婿である。

61 故 兒玉果亭 玉 堂 富 貴 (明治四十三年)

神 戸 生島 五郎兵衛 氏 藏

信州澁の人、壯年禪を學び、田能直人の門に入つて成業の後、歸郷して隱遁三十餘年におよび、南字官の大家である。大正二年歿、年七十三。

62 竹内 栖鳳 熊 (大衝) (明治四十三年)

京 都 市村慶三氏 藏

(未發表)

現日本畫壇三長老の一人。元治元年京都に生れ、幸野棟嶺の門に入り、三十三年渡歐、歸來前の棲鳳を栖鳳と改め、文展最初より審査員となる。帝室技藝員、帝國美術院會員、佛國サロン會員。

63 故 菱田春草 黑 き 猫 (明治四十三年)

侯 爵 細川護立氏 藏

(第四回文展審査員出品)

64 故 菱田春草 四 季 繪 卷 (明治四十三年)

侯 爵 細川護立氏 藏

65 故 奥原晴湖 赤 壁 (明治四十四年)

東 京 横河民輔氏 藏

蘭秀文人畫家。天保九年古河に生る。清人に學び、明治初年安田老山と東都に覇を稱す。大正二年歿、年七十六。

66 故 下村觀山 朝 歸 り (明治四十四年)

横 濱 原 富太郎 氏 藏

(日本美術院が五浦にありしころの作)

67 故 谷口香嶠 羅 浮 仙 人 (明治四十四年)

京 都 猪飼廬谷氏 藏

(作者四十八歳の作、第五回文展審査員出品、當時狂漢某に墨ぬられたるもの、一) 京都の人。栖鳳、芳文らと共に幸野棟嶺に就き、バリの大博覽會に金賞を得た。大正四年病歿、享年五十二。

68 故 都路華香 松 間 の 月 (明治四十四年)

京 都 飯田新七氏 藏

(第五回文展三等賞)

明治三年京都に生れ、幸野棟嶺の門に遊ぶ。京都繪畫專門學校、美術工藝學校長、帝展審査員、帝國美術院會員であつたが、昭和六年歿した、享年六十二。

69 故 今村紫紅 獅

子 (六曲) (明治四十五年)

男 爵 住友吉左衛門氏藏

(第二回異體畫會出品)

70 小村 大雲 釣 日 和

(大正元年)

大 阪 某 氏藏

(第六回文展三等賞)

明治十六年島根縣生。大正八年帝展推薦、大正十二年審査員に擧せられた。

71 島 成園 宗右衛門町の夕

(大正元年)

東 京 本橋 新太郎氏藏

(第六回文展優状)

明治二十六年大阪に生る。北野恒富に師事し、美人畫を得意とす。

72 故 小坂芝田 幽 遠

(十曲) (大正二年)

干 葉 小坂永夫氏藏

(第七回文展二等賞)

南宗畫家、明治五年伊那に生る。洋畫家不折とは従兄弟である。兄玉果亭に學び一家を成す。大正六年歿、享年四十六。

73 故 菊池芳文 小雨ふる吉野

(六曲) (大正三年)

男 爵 大倉 喜七郎氏藏

(第八回文展審査員出品)

74 故 寺崎廣業 高山清秋

(六曲) (大正三年)

東 京 橋本 辰二郎氏藏

(第八回文展審査員出品)

75 故 土田麥僊 大原女

(四曲) (大正四年)

京 都 吉田 忠氏藏

(第九回文展三等賞)

明治二十年佐渡に生る。鈴木松年の門に入り、のち栖鳳の門に移る。大正七年同志と國畫創作協會を起し氣を吐く。のち帝展に復歸す。舊帝展審査員。帝國美術院會員。昭和十一年歿、享年五十。

76 故 富田溪仙 宇治川繪卷

(大正四年)

高岡市 荒川 權四郎氏藏

(第二回院展出品)

77 故 今村紫紅 桃

源 (大正五年)

西宮市 井上 健兵衛 氏 藏

(院展試作展出品)

78 松岡 映丘 室 ぎ み (六曲) (大正五年)

侯 爵 細川 護立 氏 藏

(第十回文展特選)

明治十四年藩廳に生る。雅邦、貫囊の門に遊び、のち東京美術學校に學ぶ。四十年同校助教と
なる。大正八年帝展審査員に擧げられ、「平治の重盛」によつて昭和四年帝國美術院賞を受く。現
に帝國美術院會員たり。

79 結城 素明 歌 神 (大正五年)

廣島縣 藤井 與市右衛門 氏 藏

(第十回文展特選)

明治八年東京に生る。はじめ川端玉章門下となり、のち東京美術學校日本畫科を出で更に洋畫を
學ぶ。現に同校及び川端畫學校の教授をなす。帝國美術院會員。

80 小林 古徑 竹 取 物 語 (續卷) (大正六年)

濱 濱 西 澤 春 子 氏 藏

(第四回院展出品)

81 故 平福百穂 豫 讓 (大正六年)

侯 爵 細川 護立 氏 藏

(第十一回文展特選)

明治十年秋田縣に生れ、東京に出でて川端玉章の門に入り、次で東京美術學校に學ぶ。文展に毎
回出品して異色を示し、本圖を出すにおよんで、大いに世の注意するところとなる。帝國美術院
會員。昭和八年歿、享年五十七。

82 故 松本楓湖 義家射三甲之圖 (大正六年)

東 京 松 本 修 三 氏 藏

天保十四年常陸に生る。沖一峨の門に入り、のち佐竹永海、菊池容齋に學ぶ。文展には一回から
四回まで審査員をなし、大正八年帝國美術院會員に推さる。今村紫紅、高橋廣湖、小茂田青樹ら
はその門下である。大正十二年歿、享年八十四。

83 上村 松園 ほ の ほ (大正七年)

兵庫縣 藤 田 彦 三 郎 氏 藏

(第十二回文展推薦、生靈の圖である)

84 故 小茂田青樹 菜 園 (四曲) (大正七年)

(第五回院展出品)

明治二十四年埼玉縣生。松本楓湖の門に學び、日本美術院同人たり。昭和八年歿す、享年四十三。

東京 日下 英一郎氏藏

85 鎚木 清方 雨 月 物 語 (繪卷) (大正七年)

東京 作 者藏

(金鈴社展出品)

美人畫の大家、明治十一年東京神田に生る。柴田真哉の門に入り、のち水野年方の門に移る。明治三十二年日本美術院へ出品したのが最初で、以後各種の展覽會へ出品受賞多く、大正五年素明、靈華、百穂、映丘らと金鈴社を創立、一時美術界をリードした。昭和二年帝展に「築地明石町」を出品して帝國美術院賞を得。帝國美術院會員。

86 川村 曼舟 古 都 の 春 (大正七年)

東京 井田 榮造氏藏

(第十二回文展出品)

87 西山 翠嶂 落 梅 (二曲) (大正七年)

京都 吉田 忠氏藏

(第十二回文展無鑑査特選)

明治十二年京都に生る。竹内栖鳳に學び、文、帝展に出品してしばしば優賞を得、審査員となる。京都繪畫專門學校長をしたこともある。青甲社主宰、帝國美術院會員。

88 荒木 十畝 昏 (大正八年)

東京 野間 清治氏藏

(第一回帝展審査員出品)

明治五年長崎縣生。明治二十四年上京、荒木寛畝に學び、その養子となる。東京女子師範學校教授。文、帝展審査員、帝國美術院會員である。

89 池上 秀畝 雪 の 驛 路 (四曲) (大正八年)

岐阜 阜 朝日 忠次郎氏藏

(第一回帝展無鑑査出品)

明治七年長野縣に生る。夙に荒木寛畝の門に入り、南北合派を學ぶ。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

90 故池田輝方 繪師多賀朝湖流さる (六曲) (大正八年)

東京 細川 力藏氏藏

(第一回帝展出品)

明治十六年東京に生る。水野年方、川合玉堂に就いて學び、文展に出品して屢々優賞を受く。大正八年帝展推薦となつたが、十年病歿した。享年三十九。

91 榊原 紫峰 赤 松 (大正八年)

京都 飯田 新七氏藏

(第一回國展出品)

明治二十年京都生。京都繪圖專門學校出身。舊國畫創作協會員、舊帝展無鑑査、帝國美術院指定。

92 故 下村觀山 東 坡 先 生 (屏風) (大正八年)

東京 安田 一氏藏

(第六回院展出品、庭を逍遙して月光の美にうたれ、着想を得たといふ。)

93 故 山内多門 天 龍 四 季 (幅十二) (大正八年)

東京 小寺謙吉氏藏

(第一回帝展出品)

明治十一年宮崎縣に生る。若くして中原南溪に師事し、上京して玉堂、雅邦の門に遊ぶ。帝展二回より審査員となり、昭和七年歿す。享年五十五。

94 川崎 小虎 傳 說 中 將 姫 (六曲) (大正九年)

東京 作 者 藏

(第二回帝展出品)

明治十九年岐阜縣生。明治四十三年東京美術學校卒業、舊帝展審査員、帝國美術院參與。

95 北野 恒富 淀 君 (大正九年)

大阪 作 者 藏

(第七回院展出品)

明治十三年金澤生。はじめ文展に出品してゐたが、院展第一回以來こゝに出品することとなり、大正六年推されて同人となつた。門下に島成園らがある。帝國美術院指定。

96 故 田近竹邨 村 爐 春 關 (大正九年)

京都 土橋 嘉兵衛氏藏

元治元年竹田に生る。南宗畫を淵野桂仙、田能村直入に學び、文展に出品してしばしば賞を受く。帝展推薦、大正八年歿、享年五十九。

97 故 葛谷龍岬 霜 の 大 原 (六曲) (大正九年)

神戸 鈴木 岩治郎氏藏

(第二回帝展特選)

青森縣人。明治四十三年東京美術學校を出づ。かつて帝展審査員であつた。昭和八年歿、年四十八。

98 西山 翠嶂 秣 (大正九年)

神戸 上山 寛作氏藏

(第二回帝展審査員出品)

99 橋本 關雪 木 蕪 詩 (繪卷) (大正九年)

東京 小坂 順進氏藏

(第二回帝展審査員出品)
明治十六年神戸に生る。竹内栖鳳の門に遊び、文、帝展にてしばしば入賞、大正七年推薦、八年よりは審査員となる。現に帝國美術院會員、帝室技藝員である。

100 廣島 晃甫 タぐれの春 (大正九年)

東京 小坂順造氏藏

(第二回帝展無鑑査特選)

徳島縣の人。東京美術學校に入つて大正元年卒業。八年帝展に「宵衣の女」を出して一躍名を成し、翌年本作をなして復々好評を博した。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

101 結城 素明 薄光 (大正九年)

廣島縣 藤井巖市右衛門氏藏

(第二回帝展出品)

102 小室 翠雲 海寧觀潮 (大正十一年)

東京 利光鶴松氏藏

(第四回帝展審査員出品)

明治七年群馬縣生。田崎草雲に師事し、文展第八回以來審査員となる。舊南關院主宰、帝國美術院會員。

103 根上 富治 鷹 (大正十一年)

山形縣 齋藤武一郎氏藏

(第四回帝展特選)

明治二十八年山形縣に生る。大正十一年東京美術學校卒業。結城素明門下。本圖によりて一躍人氣者となる。

104 横山 大觀 生々流轉 (繪卷) (大正十二年)

侯爵 細川護立氏藏

(第十回院展出品)

明治元年水戸に生る。東京美術學校第一回卒業生。岡倉天心に親炙して啓蒙を受け、一時美術學校の教授となつたが、天心とともに辭して日本美術院を創立した。文展創設せらるゝや七回まで審査員をしたが、大正三年辭して觀山らと日本美術院を再興す。現日本畫壇三長老の一人。帝室技藝員、帝國美術院會員。

105 菊池 契月 立女 (大正十三年)

京都 作 峯藏

(第五回帝展委員出品)

明治十二年長野縣生れ、京都に出でて、はじめ内海吉堂に就き、のち菊池芳文に師事、認められて養子となる。もと繪畫專門學校長、帝國美術院會員、帝室技藝員。

106 小室 翠雲 春暖 (大正十三年)

高崎 中村家 祥氏藏

(第五回帝展會員出品)

107 故土田麥僊 舞妓林泉 (大正十三年)

(第四回國畫創作協會展出品)

東京 近藤治郎氏藏

108 矢澤 苙月 秋晴 (六曲) (大正十三年)

横濱 廣瀬保造氏藏

(第五回帝展出品)

明治十九年長野縣に生れ、はじめ寺崎廣業に就き、のち東京美術學校に入つて四十四年卒業。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

109 川端 龍子 印度更紗 (大正十四年)

東京 作香藏

(第十二回院展出品)

明治十八年和歌山市に生れ、はじめ洋畫を志したが、のち院展に出品して鬼才を認められ、同人に列す。のち故ありて日本美術院を脱退し、青龍社を起す。帝國美術院會員。

110 小室 翠雲 廣寒宮 (大正十四年)

長野縣 小山 邦太郎氏藏

(第六回帝展會員出品)

111 松林 桂月 秋溪 (大正十四年)

公爵 毛利元照氏藏

明治九年秋市に生る。夙に野口幽谷に師事し、明治四十一年以降文展に出品す。賞を受くること數回、大正八年帝展審査員となり、現に帝國美術院會員である。

112 安田 鞆彦 日食 (大正十四年)

東京 鈴木新吉氏藏

(第十二回院展出品)

113 宇田 荻邨 淀の水車 (大正十五年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(第七回帝展特選、帝國美術院賞)

明治二十九年三重縣生。大正十五年本圖によつて帝國美術院賞を授けらる。舊帝展審査員、帝國美術院參與。

114 勝田 蕉琴 無塵地 (大正十五年)

福島 伊藤善彌氏藏

(第七回帝展委員出品)

明治十二年福島縣に生る。はじめ橋本雅邦に學び、のち東京美術學校に入る。卒業後カルカッタ美術學校教授となる。二年後歸朝。舊帝展審査員たること一回。

115 故吉川靈華 離

騷 (双幅) (大正十五年)

東京 鈴木新吉氏藏

(第七回帝展委員出品)

明治八年東京に生れ、狩野良信、松原佐久に就き、また山名貫義にも師事した。大正十一年以來帝展審査員であつた。本圖は靈華一代の傑作。昭和四年歿、享年五十五。

116 近藤浩一路 御水取八題

(大正十五年)

東京 作 香藏

明治十七年山梨縣生れ、四十三年東京美術學校西洋畫科卒業。一時漫畫をかいた。日本畫を院展に出し認められて同人となつたが、近ごろ同院を去つた。

117 故平福百穂 荒磯

(大正十五年)

東京 別府哲二郎氏藏

(第七回帝展委員出品)

118 榊原紫峰 深山雙鹿

(昭和元年)

京都 小川重次郎氏藏

(未發表)

119 故石井林響 野趣二題

(双幅) (昭和二年)

東京 唐澤俊樹氏藏

(第八回帝展委員出品)

明治十七年千葉縣に生る。雅邦について學び、はじめ天風と號し帝展以來林響に改む。舊帝展審査員。昭和五年歿、享年四十九。

120 小川芋錢 老子

(昭和二年)

兵庫縣 西山亮三氏藏

(未發表、玄妙古今に絶すとの自信ある作)

明治元年東京に生る。はじめ洋畫を學んだが、のちに俳畫を以て世に知らる。大正六年日本美術院同人となり、また帝國美術院參與に推さる。

121 鏑木清方 築地明石町

(昭和二年)

東京 作 者藏

(第八回帝展委員出品、帝國美術院賞)

122 郷倉千鞞 母子鳥韻圖

(昭和二年)

東京 小澤愼平氏藏

(第十四回院展出品)

明治二十五年富山縣生。東京美術學校出身。日本美術院同人、多摩美術學校教授である。

123 福田平八郎 鮎

(昭和二年)

大分 福田馬太郎氏藏

(京都市美術展出品)
明治二十五年大分生。京都繪畫專門學校を出で、帝展第一回以來出品し、常に新意を出す。帝展審査員五回、帝國美術院参預。

124 前田 青邨 西 遊 記 (繪卷) (昭和二年)

東京 鈴木新吉氏藏

(第十四回院展出品)

明治十七年名古屋に生れ、明治三十四年上京して梶田半古の門に入る。大正三年院展に「竹取」を出して同人となり、大正十一、二年外遊。昭和四年「洞窟の頼朝」にて朝日賞を獲得す。帝國美術院會員。

125 前田 青邨 羅 馬 使 節 (昭和二年)

東京 早稻田大學 圖書館藏

(第十四回院展出品)

126 故 山元春舉 捨 骼 拾 髓 (昭和二年)

大津 山元清秀氏藏

(早苗會二十八回展出品)

127 荒井 寛方 黒 駒 (昭和三年)

東京 福原平一氏藏

(第十五回院展出品)

明治十一年栃木縣生。水野年方に師事し、日本美術院同人となる。帝國美術院指定。

128 荒木 十畝 鶴 (昭和三年)

石川縣 吉田茂平氏藏

(第九回帝展會員出品)

129 石崎 光瑤 春 律 (昭和三年)

京都 大禮記念京都美術館藏

(第九回帝展無鑑査出品)

明治十七年富山縣生。山本光一、竹内函廬に就き、歐洲、インドに遊學せしことあり。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

130 小野 竹喬 冬 日 帖 (八面) (昭和三年)

京都 上河源右衛門氏藏

(第七回國展出品)

明治二十二年岡山縣に生る。京都繪畫專門學校出身。竹内函廬に師事。舊帝展無鑑査、帝國美術院指定。

131 小林 古徑 七 面 鳥 と 鶴 (昭和三年)

侯爵 細川護立氏藏



(第十五回院展出品)

132 竹内 栖鳳 おぼろ月 (昭和三年)

(未發表)

京都 土井久吉氏藏

133 故速水御舟 翠苔綠芝 (昭和三年)

東京 速水彌生氏藏

(第十五回院展出品)

明治二十七年淺草に生れ、松本楓湖門。院展に「洛外六題」を出して認められ、同人となる。昭和十年歿、享年四十二。

134 矢野 橋村 暮色蒼々々々 (昭和三年)

大阪 岸田龜治郎氏藏

(第九回帝展特選)

明治二十三年愛媛縣に生れ、永松春洋に就いて南宗畫を學ぶ。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

135 伊東 深水 晴 (二曲) (昭和四年)

東京 玉置源一郎氏藏

(第十回帝展出品)

明治三十一年東京生。鎚木清方に師事、美人畫家として著はる。舊帝展審査員、帝國美術院指定

136 大智 勝觀 梅雨あけ (昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(第十六回院展出品)

明治十五年愛媛縣に生る。明治三十五年東京美術學校を卒へてのち、日本美術院同人に列せらる。帝國美術院指定。

137 川合 玉堂 秋山懸瀑 (昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

138 菊池 契月 菊 (昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

139 小林 古徑 みみづく (昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

140 西山 翠嶂 乍晴乍陰 (昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

141 故速水御舟 鯉

魚

(昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

142 故平福百穂 塀田の一体

(昭和四年)

東京 渡邊善十郎氏藏

(第十回帝展出品)

143 福田平八郎 南蠻黍

(昭和四年)

大連 首藤定氏藏

(第十回帝展出品)

144 前田青邨 洞窟の頼朝

(昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(第十六回院展出品、朝日賞)

145 松岡映丘 伊香保の沼

(大正十四年)

東京美術學校藏

146 松林桂月 長門峽

(昭和四年)

東京作 書藏

(第十回帝展出品)

147 松林桂月 野塘秋意

(昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

148 安田靫彦 風雷神

(昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(第十六回院展出品)

149 横山大觀 夜櫻

(昭和四年)

男爵 大倉喜七郎氏藏

(羅馬日本美術展出品)

150 塀山南風 鱗光閃々

(昭和五年)

東京 武瀨三吉氏藏

(第二回聖德太子奉讀展)

明治二十年能本生、福島峰雲、高橋廣湖に就き、文展に「霜月頌」を出し、のち日本美術院同人となる。

151 鏑木清方 三遊亭圓朝

(昭和五年)

(第十二回帝展出品)

152 川合 玉堂 か ら 臼

東京作 著藏

(昭和五年)

(第十一回帝展出品)

153 川端 龍子 草 炎

山形縣 多勢 龜五郎 氏藏

(昭和五年)

(第二回青龍社展出品)

154 川端 龍子 魚 紋

(二曲)

(昭和五年)

名古屋 河田 悦治郎 氏藏

(第二回青龍社展出品、朝日賞)

155 兒玉 希望 暮 春

東京作 著藏

(昭和五年)

(第十一回帝展特選)

156 菅 楯彦 鐵 騎 刀 槍

(昭和五年)

明治三十一年廣島縣生。川合玉堂門。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

鳥取 桑田 安常 氏藏

明治十一年鳥取生。父に土佐派の書法を受け、のち大阪に住してゐるが公の展覽會には出品せず。

157 竹内 栖鳳 潮 來 出 島

(昭和五年)

東京 小西 長治郎 氏藏

(第六回淡交會出品)

158 堂本 印象 雪

(二曲 半双)

(昭和五年)

京都作 著藏

(青甲社展出品)

別號を恒世といふ。明治二十四年京都生。京都繪畫專門學校卒業。大正十四年帝國美術院賞を受く。舊帝展審査員、帝國美術院參與。

159 故 富田 溪仙 雲 ケ 畑 の 鹿

(六曲 一双)

(昭和五年)

東京 上田 人丸 氏藏

(第十七回院展出品)

160 飛田 周山 騰 龍 圖

(昭和五年)

東京 森 濱三郎 氏藏

(六年ベルリン日本畫展出品)

明治十年常陸に生れ、二十九年上京、久保田米僊の門に入り、また京都に赴いて竹内栖鳳に従ふ。
大正十三年帝展審査員となる。帝國美術院指定。

161 故山元春舉 觀瀑山水 (昭和五年) 東京 川村千代吉氏藏

(淡交會出品)

162 山村 耕花 うんすん歌留多 (二双) (昭和五年) 東京 作 者藏

(第二回聖德太子奉養展出品)

明治十九年東京に生る。はじめ尾形月耕に學び、のち東京美術學校選科に入る。はじめ文展に出
品し、のち院展同人となる。帝國美術院指定。

163 堂本 印象 大原談義 (昭和六年) 京 部 知 恩 院藏

(第十二回帝展出品)

164 西村 五雲 日照雨 (昭和六年) 東京 美術學校藏

(第十二回帝展、文部省員上品)

165 故速水御舟 埃及風俗圖卷 (昭和六年) 東京 鈴木新吉氏藏

(三越遊藝小作展出品)

166 松岡 映丘 右大臣實朝 (昭和七年) 文 部 省藏

(第十三回帝展出品)

167 山口 蓬春 市場 (昭和七年) 東京 美術學校藏

(第十三回帝展出品)

明治二十六年北海道に生る。大正十二年東京美術學校を出で、同十五年帝展に「三熊野の那智の
御山」を出品して、帝國美術院賞を得。舊帝展審査員、帝國美術院參與。

168 川合 玉堂 秋 (昭和八年) 東京 小西詭太氏藏

(第十四回帝展出品)

169 島田 墨仙 出山釋迦 (昭和八年) 東京 小西幸寬氏藏

(第十四回帝展出品)

明治三年福井に生れ、橋本雅邦に師事す。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

170 中村大三郎 髮

(昭和八年)

東京 作

著 藏

(第十四回帝展出品)

明治二十一年京都に生る。京都繪圖專門學校卒業。のち同校助教。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

171 橋本 關雪 玄

猿

(昭和八年)

東京 美術學校 藏

(第十四回帝展出品)

172 横山 大觀 蟲

の

音

(昭和八年)

東京 某

氏 藏

(第二十回院展出品、朝日賞)

173 荒木 十畝 窈

冥

(昭和九年)

文 部 省 藏

(第十五回帝展出品)

174 菊池 契月 朱

唇

(昭和九年)

京 都 作

著 藏

(菊池塾展出品)

175 木村 武山 觀世音寺炎上

(昭和九年)

福 岡 田中丸 重藏 氏 藏

明治九年茨城縣生。明治二十九年東京美術學校卒業。日本美術院同人、帝國美術院參與。

176 竹内 栖鳳 白

鷺

(二曲)

(昭和九年)

名 古 屋 河 田 悅治郎 氏 藏

(第八回淡交會出品)

177 故 土田麥僊 燕 子 花

(昭和九年)

文 部 省 藏

(第十五回帝展出品)

178 中村 岳陵 砂

丘

(昭和九年)

横 濱 中 村 房次郎 氏 藏

(第二十一回院展出品)

明治二十三年生。川邊御橋、寺崎廣業に學び、四十五年東京美術學校を出づ。日本美術院同人、

帝國美術院參與。

179 西村 五雲 冬

暖 (昭和九年)
東京 平尾 實平 氏 藏

(鎌倉會出古印)

180 村上 華岳 山

(二曲)
(昭和九年)

神 戶 作 者 藏

明治二十一年大阪に生る。京都繪畫專門學校を出で、かつて國畫創作協會員たり。舊帝展無鑑査
帝國美術院指定。

181 結城 素明 炭

畫

(昭和九年)

文 部 省 藏

(第十五回帝展出品)

年 代 未 詳

182 故池田桂仙 竹 溪 雨 後

谷 野 英 三 氏 藏

(第七回文展三筆賞)

明治元年津市に生る。父雪樵に畫を學び、のち京都府畫學校に入る。第四回内國勲業博覽會以來
しばしば受賞、自由畫壇の長老であつた。昭和六年暮歿す、享年六十九。

183 故狩野芳崖

牧

童

東京美術學校藏

184 故寺崎廣業

横 笛 瀧 口 入 道

高野山 清 淨 心 院 藏

185 故橋本雅邦

竹 下 の 猫

東京 帝 室 博 物 館 藏

186 故森 寬齋

足 柄 山 圖

秋 菊 園 藤 賴 氏 藏

187 故守住貫魚

源 氏 物 語 圖 (双幅)

兵庫縣 村 山 長 學 氏 藏

阿波徳意の人。畫を渡邊圖書及び住吉内江に學び、峰須賀家に奉仕す、明治二十六年帝室校藝員
となり、二十五年歿す、年八十五。

188 故山名貫義 養老の圖

東京美術學校藏

江戸の人。住吉派の弘貫の門に出づ。東京美術學校教授、古社寺保存會委員、帝室技藝員等に任じ、三十五年六十七で歿した。

189 故富岡鐵齋 弘法大師入唐遊歷圖

兵庫縣 清荒神百練會藏

190 故池田蕉園 夢

東京 鈴木紋次郎氏藏

191 故今尾景年 櫻花双鶴圖

大阪 山中吉郎兵衛氏藏

鈴木百年に學び、明治二十五年アメリカコロンプス記念博覽會に「鸞猿園」を出品した、大正十三年歿す。

192 故鈴木百年 競馬圖 (六曲)

京都 官幣大社稻荷神社社務所藏

193 故鈴木松年 宅治川合戦之圖 (六曲)

京都 吉居佐助氏藏

194 故山田介堂 山路空翠圖

福井 須賀原市太郎氏藏

(日本南畫院第二回出品)
明治二年福井縣で生る。富岡鐵齋に師事し、京都美術協會展、文展出品、大正十三年卒す。

高松宮家御所藏

1 静

物

和田 英作 筆

(昭和三年作)

明治七年鹿兒島に生れ、曾山幸彦、原田直治郎、久保田米億等につき、又黒田清輝、久米桂一郎らに學んで東京美術學校を出で、三十年渡佛コランの門に入る。三十三年歸朝、東京美術學校教授となつた、正木氏に代つて同校々長となつたが、最近やめた。帝室技藝員、帝國美術院會員。

李王家德壽宮御所藏

2 巨

木

川島理一郎 筆

(昭和九年第九回國畫會出品)

夙に米國に渡り、後更に米、佛に學び、洋畫を研究して大正八年十五年渡りに歸朝。其後外遊すること數次に及ぶ。元國畫會會員。

西洋畫

3 故 フォンタネジ 牧 牛

牛

(明治初年)

東京 美術學校 藏

フォンタネジは北伊太利の人、文政元年に生れ、明治九年來朝、日本政府の美術大學設立に參画したが、その計畫は西南役で挫折するため、十一年歸國したが、工部大學美術學校で教授した彼の影響は大きい。

4 故 ワーグマン 自 畫 像

(明治初年)

東京 美術學校 藏

ワーグマンはイラストレーター・ロンドン・ニユースの特派員で、明治以前に、日本に來た。横濱に住してそこで死んだ。高橋由一、五姓田芳柳の子義松、小林清親等は彼に師事した人々である。

5 故 岩橋教章 鴨 の 静 物 (水彩) (明治八年)

男 爵 三井 高 精 氏 藏

伊勢松坂の人、明治六年興太利博覽會において洋畫を研究して八年歸朝。明治十六年歿、行年五十二。

6 故國澤新九郎 肖

像

(明治七、八年頃)

東京 美術學校 藏

土佐の人、明治五年倫敦に渡つて畫技を習ひ、七年歸朝して麴町に彰技堂を起す。門人多し。明治十年歿、年二十。

7 川村 清雄 畫

室

(明治十年)

侯爵 西郷從德氏 藏

(明治三十一年明治美術會出品)
嘉永五年江戸麴町に生れた。川上冬崖に學び、明治三年渡米、後イタリイに移り、ヴェニス美術學校に學ぶ。またフランスに遊んで十四年歸朝す。本圖はイタリイにて作るところ、一代の代表作である。昭和九年歿、年八十三。

8 故高橋由一 蛙

(明治十年頃)

東京 美術學校 藏

文久二年蕃書調所畫學局に入り、後ワグマン等の教を受け、明治六年天繪社を起す。門下に原田直治郎、五百城文哉等あり。明治二十七年歿、年六十七。本圖は明治初期の代表的傑作の一

9 故曾山幸彦 辻 講 釋

(明治十年代)

東京 大野竹二氏 藏

10 故百武兼行 ブルガリアの少女

(明治十二年)

東京 美術學校 藏

(イタリイ留學中の作)

11 故小山正太郎 牧 童

(水彩) (明治十二、三年頃)

東京 小山すみ子氏 藏

長岡の人、冬崖、ゲリノーにつき、後フォンタネエジの指導の下に正式に洋畫を學ぶ。明治二十年同舎を起して子弟を誘接す。後の太平洋畫會會員はおほむねその門下である。大正五年歿、年六十。

12 故小林清親 鶏 の 圖

(版畫) (明治十三年)

東京 帝國圖書館 藏

弘化四年江戸に生れ、樺岳、是眞、南嶺らにつき、更にワグマンに洋畫を學び、また曉齋に師事す。東京風景版畫はその主要なる作である。本圖もまた代表作の一。大正四年歿、年七十。

13 松岡 壽 凱 旋 門

(明治十五年頃)

東京 美術學校 藏

文久二年岡山に生る。明治六年川上冬崖につき、又フォンタネエジに學ぶ。十三年伊佛に留學し九年の後歸朝。後東京工藝學校々長となる。文展審査員をした事もある。

14 故五姓田芳柳 孟母斷機圖 (水彩) (明治十九年)

新潟縣 西脇 新次郎氏藏

文政十年江戸に生れ、長崎において和蘭畫を見、これを學ばんとして獨學數年、一派を開く。明治二十五年歿、年六十六。

15 合田 清 晩 歸 (木版) (明治十九年)

東京 長尾 健吉氏藏

明治十年ころより十五、六年ころまで渡歐、歸朝後、山本芳季氏と共に精巧館を営み我國に西洋木版を傳ふ。

16 故原田直治郎 靴屋のおやぢ (明治十九年)

東京 美術學校藏

(歐洲留學中の作)

又久三年江戸に生れた、十二歳の時山岡成章に畫を學ぶ、二十一歳にして高橋由一につき、十七年獨逸に留學、二十二年歸朝す。これは渡歐中の作である、三十二年歿、年三十七。

17 故山本芳翠 西洋婦人像 (明治二十年代)

東京 美術學校藏

(歐洲留學中の作)

嘉永三年岐阜縣に生れ、初代五姓田芳柳に洋畫を學び、又工部大學美術學校に入る、明治十一年渡佛シエロームにつく、三十九年歿、年五十七。

18 故五百城文哉 袋田の瀧 (明治二十年代)

東京 小杉 放庵氏藏

水戸の人、高橋由一の門下で小杉放庵氏はその門下である。明治三十九年歿、年四十四。

19 故中丸精十郎 弓手 (擦筆) (明治二十年代)

東京 美術學校藏

20 佐久間文吾 清水寺 (明治二十年頃)

東京 桐淵 梅尾氏藏

山本芳季の門、明治二十三年の内國勸業博覽會に「和氣清磨」を出して妙技三等賞を得たる事あり後にやむ。現今は台灣に居る。

21 岡 精一 山内一豊の妻 (明治二十三年)

東京 美術學校藏

(第三回内國勸業博覽會表状)

明治元年東京に生れ、淺井忠、本多錦吉郎等につき、更に不同舎に學ぶ、後米英佛に留學、四十年歸朝した、現に太平洋畫會々員である。

22 故久米桂一郎 夏の夕 (明治二十三年)

東京 美術學校藏

在歐中の作

23 故 床次正精 肖 像

(明治二十三、四年頃)

東京 長尾健吉氏藏

床次竹二郎氏の父である。

24 故 黒田清輝 讀 書

(明治二十五年)

伯爵 樺山愛輔氏藏

(二十六年明治美術會出品)

慶應二年鹿兒島に生る。明治十七年フランスに留學し、ラファエル・コランについて洋畫を學び、二十六年歸朝、二十七年天眞酒場を起して後進の指導に力む。二十九年東京美術學校に入り、三十年教授となり、後帝國美術院長、帝室技藝員となる。明治洋畫界の巨匠である。大正十三年歿、享年五十九歳。

25 故 淺井 忠 收 穫

(明治二十六年)

東京美術學校藏

(明治美術會出品)

安政三年江戸に生る。明治八年彰技堂に、後年フォンタネジーについて研究す。三十一年東京美術學校教授となり、佛國に留學、のち京都工藝學校に轉じ、また關西美術院を開いた。四十年歿、年五十二。門下に安井曾太郎、津田青楓、都島英喜らがある。

26 故 黒田清輝 朝 妝

(明治廿六年)

男 爵 住友 吉左衛門 氏藏

(廿八年第四回内國勸業博覽會出品)

當時驚々たる裸體畫問題を惹起したる作。

27 故 久米桂一郎 八 坂 塔

(明治二十六年)

伯爵 樺山愛輔氏藏

白馬會出品

28 故 黒田清輝 舞 妓

(明治二十七年頃)

東京 大橋 佐太郎 氏藏

29 故 湯淺一郎 漁 夫 晚 歸

(明治二十八年)

東京美術學校藏

(第一回白馬會出品)

明治元年群馬縣に生れ、山本芳翠、黒田清輝等につき、後東京美術學校に入り、滞歐數年。初め文展に出品してゐたが、二科會の出來た時會員となつた。昭和六年歿、年六十四。

30 白瀧幾之助 稽 古

(明治三十年)

東京美術學校藏

(第二回白馬會出品)
明治六年兵庫縣に生る。山本芳翠、黒田清輝に學び、後東京美術學校を卒業、歐米に遊學二回。帝展審査員八回、第二部會會員。

21 彭城 貞徳 和洋合奏之圖 (明治三十年)

男 爵 三井高糖氏藏

明治七年工部大學美術學校に入り、十年卒業、米英佛に渡り、二十七年歸朝。爾來病氣のため埋もれて、現在は東京に海産物商を営んでゐる、本年八十一歳。

32 故本多錦吉郎 日本名園圖譜 (水彩) (明治三十年頃)

東京 本多 明氏藏

三ヶ年の日子を費して實寫したる作。

33 渡邊 審也 俊 寛 (明治三十年)

東京 作 者藏

(明治美術會展出品)
明治八年大垣に生る、明治二十七年明治美術會洋畫教場第一期卒業、更に淺井忠に師事す。文部省囑託となつて教科書の圖畫を擔任す。太平洋畫會會員。

34 故黒田清輝 湖 畔 (明治三十一年)

東京 美術研究所藏

35 北 蓮藏 遺 兒 (明治三十二年)

東京 長尾一平氏藏

(第四回白馬會出品)

明治九年岐阜縣生れ、明治三十一年東京美術學校を出づ、舊帝展無鑑査、第二部會會員。

36 小林 萬吾 門 づ け (明治三十三年)

東京 帝室博物館藏

(三十六年第五回内國勸業博覽會三等賞)

明治三年香川縣に生る、三十二年東京美術學校を卒業、四十四年文部省留學生として佛獨伊に遊び、大正三年歸朝、同校教授、舊帝展審査員八回、第二部會會員。

37 赤松 麟作 夜 汽 車 (明治三十四年)

東京 美術學校藏

(第六回白馬會賞、第五回内國勸業博覽會褒状)

明治十一年岡山縣に生れ、三十二年東京美術學校を出づ、後大阪朝日新聞社に入りしことあり、光風會會員、舊帝展無鑑査第二部會會員。

38 故淺井 忠 ぐ れ 秋 景 (明治三十四年)

千葉縣 淺井經一氏藏

39 三宅 克巳

巴里セー又河のほとり

(明治三十四年)

東京 山下 吉三郎 氏 藏

(第七回白馬會出品)

明治七年徳島縣に生る。曾山幸彦、原田直治郎らについて研究し、渡歐數回、水彩畫の先進者と
して知られてゐる。舊帝展審査員三回、第二部會員。

40 故 淺井 忠

縫 ひ も の

(明治三十五年)

東京 反町 茂作 氏 藏

41 岡田三郎助 讀

書

(明治三十五年)

男 爵 住友 吉左衛門 氏 藏

(二十五年白馬會出品、三十六年大阪第五回同國勸業博覽會二等賞)

明治二年滋賀に生れ、曾山幸彦、堀江正幸、黒田清輝、久米桂一郎らについて洋學を學び、三十
年佛國に留學、コランの門に入る。歸朝東京美術學校教授を任じ、文展第一回以後ずつと審査員
であつて、帝國美術院會員、帝室技藝員。

42 和田 英作

こ だ ま

(明治三十六年)

男 爵 住友 吉左衛門 氏 藏

(三十六年第五回内國勸業博覽會一等賞)

43 故 青木 繁

海 の 幸

(明治三十七年)

福岡縣 梅野 謙雄 氏 藏

(同年白馬會出品)

福岡縣久留米市の人、明治三十一年上京して不問舎に入り、後美術學校に轉じて三十七年卒業、
異色ある天才畫家として知らる。四十四年肺患にて逝く、年三十。

44 石井 柏亭

草 上 の 小 憩

(明治三十七年)

東京 作 者 藏

(第三回太平洋洋畫會出品)

明治十五年東京に生る。日本畫家鼎湖の長男。淺井忠、中村不折の指導を受け、後美術學校に入
學、一年にして辭す。初め文展に出品してゐたが、大正三年有島生馬氏らと二科會を起した帝國
美術院會員、二科會名譽會員。

45 故 河合新藏

セー 又 河 畔

(明治三十七年)

東京 小島 烏水 氏 藏

(同年太平洋洋畫會出品)

慶應二年大阪に生れ、洋畫を五姓田芳柳、小山正太郎に學ぶ。歐米留學四ヶ年、大下藤次郎らと
日本水彩畫研究會を起す。舊帝展無鑑査、太平洋畫會々員、第二部會々員。

46 故 滿谷國四郎 戰

語 り

(明治三十九年)

東京 加納 百里 氏 藏

(第五回太平洋洋畫會出品)

明治七年岡山縣に生る。不同舎に學び、渡歐二回。太平洋洋畫會々員、舊帝展會員で帝國美術院會員、昭和七年帝展に「緋毛氈」を出品して朝日賞を贈らる。昭和十一年歿。

47 故 大下藤次郎 穂 高山の麓

(明治四十年)

東京 大下正男氏藏

(第一回文展出品)

明治三年東京に生る。中丸精十郎、原田直治郎について洋畫を學ぶ。水彩畫家として名著はる、四十四年歿、年四十二。

48 高村 眞夫 黄 檠 僧

(明治四十年)

長岡 渡邊清次郎氏藏

(東京勸業博覽會三等賞)

明治九年新潟に生る。三十二年上京して不同舎に學ぶこと三年、外遊一回、舊帝展無鑑査、太平洋洋畫會々員、第二部會々員。

49 橋本 邦助 ともしび

(明治四十年)

東京 作者藏

(第一回文展三等賞)

明治十七年栃木縣に生れ、三十六年東京美術學校を卒業し、四十四年巴里に留學、後日本畫家として知らる。舊帝展無鑑査、第二部會々員。

50 藤島 武二 ヨツト

(明治四十年)

東京 美術學校藏

(白馬會出品)

慶應三年鹿兒島に生る。明治十七年上京。川端玉章の門に入り、後洋畫に轉じ、中丸精十郎、松岡壽、山本芳峯に學ぶ。三十八年留學。東京美術學校教授、帝室技藝員、帝國美術院會員。

51 和田 三造 南 風

(明治四十年)

文 部 省藏

(第一回文展二等賞)

明治十五年福岡縣に生れ、白馬會研究所に入つて後東京美術學校に學び、三十七年卒業、文展第一回に本圖を出して一躍名を成す。外遊二回。東京美術學校教授、帝國美術院會員。

52 鹿子木孟郎 ローランス畫伯の肖像

(明治四十一年)

男 爵 住友 吉左衛門氏藏

(第一回文展審査委員出品)

明治七年岡山に生れ、洋畫を松原三五郎、小山正太郎に學び、また渡佛してローランスに師事す、四十一年歸朝、關西美術院院長となる。舊帝展審査員、太平洋洋畫會會員。

53 故 山本森之助 曲

浦

(明治四十一年)

文 部 省藏

(第二回文展三等賞)

明治十年長崎に生れ、大阪に出でて山内愚僊の門に入り、後東京に移りて淺井忠、山本芳翠らに學び、更に東京美術學校を卒業す。文展四回以來審査員たり、昭和三年歿、年五十二。

54 吉田 博 峽

谷 (明治四十一年)

男 爵 古河 虎之助 氏 藏

(第二回文展出品)

明治九年久留米市に生れて、田村宗立、小山正太郎に師事し、三十四年同志と太平洋協會を起す。外遊三回。舊帝展の審査員たること七回、第二部會々員。

55 故 石橋和訓 美人讀詩 (額) (明治四十二年)

男 爵 三井 高 齋 氏 藏

(第三回文展二等賞)

明治九年島根縣に生れ、はじめ補和亭について南畫を修め、三十六年英國に留學し、大正七年歸朝す。以來帝展委員となり、十年再渡英し、十三年歸國。肖像畫家としては世界に聲名を馳せてゐたが、昭和三年歿す、年五十三。

56 熊谷 守一 蠟

燭 (明治四十二年)

東 京 湯 澤 三千男 氏 藏

(第三回文展優狀)

明治十三年岐阜生。東京美術學校を出づ、二科會員。

57 中澤 弘光 おもひて (明治四十二年)

文 部 省 藏

(第三回文展二等賞)

明治七年東京生、曾山幸彦、堀江正章、黒田清輝について洋畫を學び、三十二年東京美術學校選科を出た。帝國美術院會員。

58 山脇 信徳 停車場の朝 (明治四十二年)

東 京 美 術 學 校 藏

(第三回文展優狀)

明治十九年高知に生る。四十三年東京美術學校を出て、本圖によつて名を成す。明治四十四年より大正六年まで膳所中學の教師であつた。院展へ「湖畔の冬」を出して犒牛賞を得たこともある。

59 平岡權八郎 コツク場の一隅 (明治四十三年)

東 京 作 者 藏

(第四回文展三等賞)

明治十六年東京生、白馬會研究所に學ぶ。舊帝展無鑑賞、第二部會々員。

60 小杉 放庵 水郷 (明治四十四年)

文 部 省 藏

(第五回文展二等賞)

前號未醒、明治十四年栃木縣に生れ、五百城文哉に師事し、また不同舎に入る、文展に「柳」「水

61 故 兒島虎次郎 讀

書

倉敷 大原美術館藏

(明治四十五年)

郷)を出してその名高く、大正二年歐洲に遊び、翌年歸つて院展同人となり、また二科に参加したが六年脱退した。後院展を出で、同志と春陽會を起す。帝國美術院會員をもなした。

(白耳義にて作る)

岡山縣の人、明治三十七年東京美術學校を出で、歐洲に遊ぶこと三回、アマンヂヤンに師事し、サロン・ナショナル等の會員であつた。昭和二年帝展審査員に擧げられたが、昭和四年歿した。行年四十九。

62 故 萬 鉄五郎 凭れかゝる人

(明治四十五年)

大阪 八木正治氏藏

(東京美術學校卒業製作)

明治十八年岩手縣に生る。大正六年東京美術學校を卒業し、一時フニオン會に屬し、院展、二科展などにも出品した。昭和二年歿す、年四十二。

63 太田喜二郎 赤い日傘

(大正元年)

東京 黒川新次郎氏藏

(ベルギー萬國博覽會出陳、大正三年大正博覽會三等賞)

明治十六年京都に生る。はじめ白馬會研究所に學び、後東京美術學校を出、更にベルギーに留學し、ウィットマンにつく。舊帝展審査員、第二部會會員。

64 辻 永 無花果畑

(大正元年)

東京 今村繁三氏藏

(第六回文展三等賞)

明治十七年廣島に生れ、三十九年東京美術學校卒業、外遊二年。舊帝展審査員七回、第二部會々員。

65 加藤 靜兒 網を干せる朝

(大正二年)

東京 作者藏

(第七回文展優狀)

明治二十年愛知縣に生る。四十三年東京美術學校を出で、外遊一回。舊帝展無鑑査、第二部會々員。

66 永地 秀太 しぼり

(大正二年)

東京 作者藏

(第七回文展三等賞)

明治六年山口縣生れ、松岡壽について洋畫を學び、後明治美術會附屬教場に入る。大正九年より十一年まで外遊。舊帝展審査員、第二部會々員、現に東京高等工藝學校教授である。

67 故 長原孝太郎 晩春

(大正二年)

東京 帝室博物館藏

(第七回文展優状)
元治元年美濃に生る。不同舎に入り、後東京美術學校教授に任ず。大正八年以來帝展審査員、昭和五年歿、六十七。

68 故 廣瀬勝平 志 摩 の 端 (大正二年)

大阪 野村 徳七 氏 藏

(第七回文展優状)

69 藤島 武二 う つ つ (大正二年)

東京 沖 一 貫 氏 藏

(第七回文展三等賞)

70 矢崎千代二 草 刈 (大正二年)

大阪銀行集會所 藏

明治五年横須賀に生る。曾山幸彦につき、後東京美術學校に學ぶ。歐亞遊歴十五年に及ぶ。文展出品、またパステル畫をもつて聞こゆ。

71 故 中川八郎 杏 花 の 村 (大正三年)

文 部 省 藏

(第八回文展審査員出品)

明治十年愛媛縣に生れ、松原三五郎、小山正太郎に學び、歐米遊學五年、文展に出品して第五回

以後審査員に推された。大正十一年歿、享年四十六。

72 丸山 晚霞 早 春 (大正三年)

東京 作 者 藏

(大正博覽會出品)

慶應三年信濃に生る。十八歳の時上京して彰枝堂に四年在學、三十二年歐米に遊學し、後大下藤次郎氏と日本水彩畫會研究所を起す。太平洋畫會々員。

73 安井曾太郎 孔 雀 と 女 (大正三年)

東京 西村 總太郎 氏 藏

(第二回二科展出品)

明治二十一年京都に生れ、淺井忠の門に入り四十年渡佛、大正三年歸朝。四年二科會々員となり同年滯歐中の作數十點を出陳して世の注目を惹く、帝國美術院會員、二科會名譽會員。以來多くの名作を出す。

74 森脇 忠 鏡 の 前 (大正四年)

京都帝大醫學部 藏

(第九回文展三等賞)

明治二十一年島根縣生れ、大正三年東京美術學校卒業、舊帝展出品。

75 新井 完 豚 と 豚 の 仔 (大正五年)

兵庫縣 岩田 希芳 氏 藏

(第十回文展出品)
明治十八年姫路生れ、明治四十三年東京美術學校卒業、外遊二年、舊帝展審査員一回、第二部會
會員。

76 大野 隆徳 高原に働く人 (大正五年)

神戸 岡崎忠雄氏藏

(第十回文展特選)
明治十九年千葉縣に生る、四十四年東京美術學校を出づ、大正十年より十三年まで外遊、舊帝展
無鑑査、第二部會々員。

77 大久保作次郎 三月の日 (大正六年)

東京 作 者藏

(第十一回文展特選)
明治二十三年大阪に生れた。大正四年東京美術學校卒業、大正十二年より外遊四年、舊帝展審査
員五回、第二部會々員

78 山本 鼎 サーニヤ (大正六年)

倉敷 大原孫三郎氏藏

(第四回院展出品)
明治十五年岡崎に生れ、東京美術學校に入つて三十九年卒業。フランスに留學數年、大正六年歸
朝し日本美術院同人となる。後同志と春陽會を起す。又農民美術研究所長である。

79 故片多徳郎 花下竹人 (大正七年)

足立 正氏藏

(第十二回文展無鑑査特選)
明治二十二年大分縣に生れた。東京美術學校を四十五年に出で、文展には毎回異色ある作品を出
し、院展にも出品したが、遂に帝展委員に推され、昭和九年自殺す。年四十五。

80 故關根正二 信仰の悲しみ (大正七年)

東京 村上濱吉氏藏

(第五回二科展出品)
天才ある畫家として囑望されたが夙く夭折す。

81 高間 惣七 夏草 (大正七年)

東京 作 者藏

(第十二回文展特選)
明治二十二年東京に生る。大正五年東京美術學校を出づ。舊帝展審査員、東光會會員。

82 安宅安五郎 白蓮樹 (大正八年)

大阪 中林孫次郎氏藏

(第一回帝展特選)
明治十六年新潟縣生れ、東京美術學校を明治四十三年に出でて、大正十年より十一年まで外遊。
舊帝展審査員、第二部會會員。

83 南

薰造

デュエット

(舊名樂器を)
持てる男 (大正八年)

東京作

著藏

(第一回帝展審査委員出品)

明治十六年廣島縣に生れた。同四十年東京美術學校を出て、直ちに外遊、英、佛に學び、アメリカを経て四十三年歸朝、第五回文展に「瓦焼き」を出して名聲一時に學がる。大正五年以後審査員をなし、現に帝國美術院會員たり。

84 柚木

久太

水郷の夕

(大正八年)

東京作

著藏

(第一回帝展特選)

明治十八年岡山縣生れ、玉島町の南畫家柚木玉邨の息、中村不折、瀧谷國四郎に師事し、後フランスに留學してアカデミー・ジュリアンに學ぶ。舊帝展無鑑査、第二部會々員。

85 足立源一郎

眼を装ふ女

(大正九年)

東京作

著藏

(第七回院展出品)

明治二十二年大阪に生る。京都美術工藝學校、關西美術院などに學び、更に太平洋畫會研究所に修業、外遊二回。春陽會々員。

86 小柴

錦侍

美しき五月マリアの日

(大正九年)

東京 堀越三郎氏藏

(第二回帝展特選)

明治二十三年東京に生る。東京高等工業學校を出でて四十二年より大正九年まで外遊。舊帝展無鑑査。第二部會々員。

87 故小出檜重

少女お梅の像

(大正九年)

大阪 津田勝五郎氏藏

(第七回二科展出品)

明治二十年大阪に生る。東京美術學校を大正三年卒業、外遊一回。初め院展に出品し、二科展は第六回に「竹林」等を出して樽牛賞を得、後二科會々員となる。大正十三年鍋井氏等と共に信濃橋洋畫研究所の指導者となつた。昭和六年歿、享年四十五。

88 故中村 彝

ヒロシエノコの像

(大正九年)

東京 今村繁三氏藏

(第二回帝展出品)

明治二十一年水戸に生れ、中村不折、瀧谷國四郎に學び、四十二年太平洋畫會において奨勵賞を得、また文展に毎回出品して賞讃を博し、遂に特選及び推薦となつたが大正十二年歿した。年三十八。

89 中村 不折

賺蘭亭圖

(大正九年)

東京作 著藏

(第二回帝展會員出品)
洋畫界の長老、慶應二年江戸に生れ、最初南畫を眞壁裏郷に學び、苦學して二十一年不同舎に入り二十四年より油繪をかく、三十四年フランスに留學、三十八年歸朝した。文展審査員第一回より審査員をなし、大正八年より帝國美術院會員、太平洋美術學校長。

90 故岸田劉生 自畫像 (大正九年)

横濱原善一郎氏藏

91 故川上涼花 上總の海 (大正十年)

東京大森商二氏藏

明治二十年東京に生れ、太平洋畫會研究所に學び、フューザン會同人となり、その後專ら木炭畫を描く、大正十年歿、行年三十五。本圖は晩年の作の一。

92 木下義謙 兄の肖像 (大正十年)

東京作 者藏

(第八回二科展出品)

木下孝則の弟、本圖は即ち孝則の像である。明治三十一年東京に生る。東京高等工業を出で、昭和三年より七年まで外遊、二科會員であつたが、今は一水會々員。

93 國枝金三 柵檀の木の家 (大正十年)

大阪作 者藏

(第八回二科展出品)
明治十九年大阪に生る。關西美術院を出で二科會々員たり。

94 都鳥英喜 ビアंकールの朝 (大正十年)

京都 上河源右衛門氏藏

(第三回帝展出品)

明治六年千葉縣生、淺井忠に師事す。外遊二回京都高等工藝學校教授、太平洋畫會々員。

95 富田溫一郎 業 (大正十年)

東京作 者藏

(第三回帝展無鑑査出品)

明治二十年金澤生、東京美術學校を四十四年に出づ、舊帝展無鑑査、第二回會會員。

96 藤田嗣治 静物 (大正十年)

東京作 者藏

(巴里サロン・ドートンヌ出品)

明治十九年東京生、四十三年岡本一平、近藤浩一路等と同時に東京美術學校を出で、多年巴里にあつて世界的盛名を得、舊帝展無鑑査、サロン・ドートンヌ會員、二科會會員。



97 岡見 富雄 猫を持つ女 (大正十一年)

東京作 者藏

(巴里サロン・ド・テュレリー出品)

大正三年東京美術學校を出て渡佛、アマン・ヂヤンに師事す。東光會々員。

98 金山 平三 下諏訪のリンク (大正十一年)

男爵 三井高精氏藏

(第四回帝展審査員出品)

明治十六年神戸に生れ、東京美術學校に入つて四十二年卒業、同校の助手となり、後フランスに留學、大正五年歸朝して、大正八年より審査員をなすこと十一回。第二部會々員。

99 黒田重太郎 港の女 (舊名、スカーレル) (大正十一年)

京都作 者藏

(十二年第十回二科展)

明治二十年大津に生る、淺井忠、鹿子木孟郎に學び、後フランスに留學す、大正七年歸朝、二科會々員。

100 清水 良雄 肖像 (大正十一年)

東京作 者藏

(第四回帝展特選)

明治二十四年東京生、大正五年東京美術學校を卒業、帝展審査員となる事一回、第二部會々員。

101 椿 貞雄 静物 (大正十一年)

千葉縣作 者藏

明治二十八年米澤生、岸田劉生、木村莊八の諸氏と大正五年草土社を起した。本圖はその展覽會に出品されたものである、後二科展、春陽會展にも出品して、現に國畫會々員。

102 故遠山五郎 書 (大正十一年)

男爵 三井高精氏藏

(第四回帝展特選)

明治二十一年福岡市に生る、大正三年東京美術學校を出て、同十一年渡歐、帝展特選となる事一回、昭和三年歿、年四十。

103 跡見 泰 ヴェトイユの寺 (大正十二年)

浦和作 者藏

(佛國ナショナルサロン出品、十三年第六回帝展出品)

明治十七年東京生れ、明治三十七年東京美術學校を卒業、滯佛三年、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

104 倉田 白羊 冬の林檎林 (大正十二年)

長野縣 半田孝海氏藏

(第一回春陽會展出品)

明治十四年埼玉縣に生る、初め淺井忠につき後、東京美術學校に入學して、三十四年卒業、大正四年院展同人となり後春陽會々員となる。

105 鈴木

亞夫

葡萄

と

女

(大正十二年)

東京作 者藏

(中央美術展出品中央美術賞)

明治二十七年大阪生。大正十年東京美術學校を出て、二科會に出品してゐたが獨立美術協會の創立と同時に會員となる。

106 正宗得三郎

モレエ風景

(大正十二年)

兵庫縣 小河清太郎氏藏

(第十一回二科展出品)

明治十八年岡山縣生。小説家正宗白鳥氏の弟、明治四十年東京美術學校卒業、大正三年より五年まで佛國に遊學、後再び外遊す。二科會々員。

107 坂本繁二郎

帽子持てる女

(大正十三年)

福岡作 者藏

(第十一回二科展出品)

明治十五年久留米に生る。三十五年青木繁とともに東京に出でて小山正太郎の不同舎に學ぶ。滯佛三年、二科會々員となる。

108 濱田 葆光

早春の丘

(大正十三年)

奈良作 者藏

(第五回國畫創作協會展出品)

明治十九年高知に生る。中村不折、瀧谷國四郎に師事し、大正十年より三ヶ年瀕佛、二科會々員

109 横井 禮市

庭

(大正十三年)

名古屋作 者藏

(第十一回二科展出品)

明治十九年愛知縣生、四十五年東京美術學校を出でて二科會會員となる。

110 和田 英作

大住嘯風君肖像

(大正十三年)

横濱 大住秀夫氏藏

(第五回帝展會員出品)

111 故岸田劉生

麗

子

像

(大正十三年)

横濱 原善一郎氏藏

112 熊岡 美彦

綠

衣

(大正十四年)

東京 三井高光氏藏

(第六回帝展出品、帝國美術院賞)

明治二十二年茨城縣に生る。大正二年東京美術學校を出で、大正十四年美術院賞を得、大正十五年より昭和四年まで歐洲に遊學。舊帝展審査員、東光會々員。

113 故 佐伯祐三 瓦斯燈と廣告 (大正十四年)

兵庫縣 山本 發次郎 氏藏

明治三十一年大阪に生れ、大正十二年東京美術學校卒業後直ちに渡佛、ヴラマンクに師事す、十五年歸朝。滯歐作を出品して二科賞を受く、昭和二年再度渡佛中、病を得て三年歿、年三十一。

114 坂本繁二郎 家 政 婦 (大正十四年)

東京 牧野司郎氏藏

(第十二回二科展出品)

115 鈴木千久馬 寢椅子の裸婦 (大正十四年)

東京 鈴木繪畫研究所藏

(第六回帝展特選)

明治二十七年福井に生る。東京美術學校を大正十年に卒業し、舊帝展審査員たること三回、第二部會々員である。

116 寺内萬治郎 裸 婦 (大正十四年)

東京 高橋研三氏藏

(第六回帝展特選)

明治二十三年大阪に生れ、大正五年東京美術學校を卒業。舊帝展審査員二回、第二部會々員。

117 藤田 嗣治 舞踊會の前 (大正十四年)

某 氏藏

(巴里、サロン・ドートンヌ出品)

118 故 青山 熊治 朝 (大正十五年)

大阪 磯原敏雄氏藏

(第七回帝展出品、帝國美術院賞)

明治十九年兵庫生、東京美術學校を卒へて文展五回に二回賞を得、滯歐九年の後歸朝。本圖によつて院賞を得。後年審査員となり。昭和七年歿、年四十七。

119 有馬さとえ 花 壺 (大正十五年)

東京 佐藤義亮氏藏

(第七回帝展特選)

岡田二郎助の門、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

120 河野 通勢 蒙古襲來の圖 (大正十五年)

東京 作 峯藏

(第一回聖德太子奉讚展出品)

明治二十八年群馬縣生、元草土社同人、國畫會々員。

121 田邊 至 裸

體

(大正十五年)

大阪 岸本 兼太郎 氏 藏

(第七回帝展委員出品)

明治十九年東京生。四十三年東京美術學校を出で、昭和六年帝國美術院賞を受く、作は寧ろ本圖の方優れりとされる。舊帝展無鑑査、第二部會々員。

122 故 前田寛治 C

嬢

(大正十五年)

鳥取縣 桑田 安常 氏 藏

(第七回帝展出品)

明治二十九年鳥取縣に生る。大正十年東京美術學校を卒業し、帝展に出品して特選二回、昭和三年推薦となり、翌年審査員に擧げられたが和五年歿した。行年三十五、病中の大作「海」は帝國美術院賞を與へられた。

123 岡田三郎助 アヤメの着物

(昭和二年)

東京 中村 英吉 氏 藏

(春台展出品)

124 木下 孝則 K 夫人 像

(昭和二年)

東京 作 者 藏

(第一回聖德太子奉讚展出品)

125 草光 信成 四人の子等

(昭和二年)

作 者 藏

明治二十七年東京に生る。京都帝大及東京帝大修了、外遊二回、義謀の兄。

(第八回帝展特選)

明治二十五年鳥根縣生。大正五年東京美術學校卒業、舊帝展無鑑査。

126 小島善太郎 林中 小春 日

(昭和二年)

兵庫縣 野村 徳七 氏 藏

(第十四回二科展出品)

明治二十五年東京に生る。太平洋畫會研究所等に學ぶ、外遊二回、獨立美術協會々員。

127 高島達四郎 老人

(昭和二年)

東京 作 者 藏

(五年第二回聖德太子奉讚展出品)

明治二十八年東京生。大正十年より昭和二年まで滯歐、獨立美術協會々員。

128 津田 青楓 海水着 少女

(昭和二年)

京都 上河 源右衛門 氏 藏

(第十四回二科展出品)

明治十三年京都に生れ、谷口香崎、淺井忠、ローランス等に師事す。四十年より四十三年まで滯

佛、最近日本畫に専念す。

129 中野 和高 婦人座像 (昭和二年)

東京作 著藏

(第八回帝展特選)

明治二十九年東京府生。大正十年東京美術學校卒業、滯佛六年。舊帝展審査員二回、第二部會會員。

130 中村 不折 子虚賦 (昭和二年)

東京作 著藏

(第八回帝展會員出品)

131 梅原龍三郎 薔薇圖 (昭和三年)

奈良 志賀直哉氏藏

(第七回國畫會出品)

明治二十一年京都に生れ、淺井忠に學び、四十一年から大正二年まで五ヶ年間巴里に留學。二科會の創立と共に同會の會員となつたが、大正七年脱會、春陽會に出品した事もあるが、のち國畫會の首領となつた。帝國美術院會員。

132 江藤 純平 S氏像 (昭和三年)

東京作 著藏

133 小杉 放庵 羅摩物語 (昭和三年)

兵庫縣 山口 吉郎兵衛氏藏

(第九回帝展特選)

大正十二年東京美術學校卒業、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

134 小寺 健吉 南歐のある日 (昭和三年)

東京作 著藏

(第九回帝展特選)

明治二十年大垣に生る。四十四年東京美術學校卒業、外遊二回、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

135 中川 紀元 夏庭 (昭和三年)

東京作 著藏

(第十五回二科展出品)

信州諏訪の人、石井柏亭に師事、大正八年より十年まで滯佛。二科會々員。

136 野間 仁根 夜の床 (昭和三年)

東京作 著藏

(第十五回二科展出品)

明治三十四年愛媛縣生。大正十四年東京美術學校卒業、中川紀元に師事。二科會々員。

137 林

倭衛 ク井イの橋

(昭和三年)

静岡縣 柏木 倭一氏藏

138 松村

巽 黃布の静物

(昭和三年)

千葉縣 中村 勝五郎氏藏

139 三上

知治 護

羊 犬

(昭和三年)

男爵 三井 高精氏藏

(第九回帝展特選)
明治二十六年東京生。白馬會研究所、太平洋畫會研究所にて修業、舊帝展無鑑査、第二部會會員

140 故 前田寬治

裸

女

(昭和三年)

鳥取縣 前田 愛子氏藏

141 猪熊弦一郎 座

像

(昭和四年)

兵庫縣 岩田 希芳氏藏

(第十一回帝展特選)
明治三十五年香川縣生。東京美術學校修了、舊帝展無鑑査、第二部會會員。

142 奥瀬

英三

伊豆の海

(昭和四年)

東京 波多野 春房氏藏

(第十回帝展委員出品)
明治二十四年三重縣生。太平洋畫會研究所修了、舊帝展審查員一回、太平洋畫會會員、第二部會會員。

143 故 古賀春江

海

(昭和四年)

福岡 小野寺 直助氏藏

(第十六回二科展出品)
明治二十八年福岡に生る。太平洋畫會研究所、日本水彩畫會研究所に學ぶ。二科會會員、昭和八年没、年三十九。

144 小林

和作

薔薇咲くカブリ島

(昭和四年)

尾道 作 者藏

(第七回春陽會展出品)
明治二十一年山口縣生。川北霞峰、鹿子木孟郎、梅原龍三郎、中川一政に師事、外遊一回、元春陽會會員、獨立美術協會會員。

145 小山 敬三 南 佛 風 景 (昭和四年)

神奈川縣 作 者 藏

146 齋藤 與里 稔 る 秋 (昭和四年)

兵庫縣 岩田 正治郎 氏 藏

(第七回春陽會展出品)
長野縣生。本郷洋畫研究所、美術院修了。外遊一回、元二科會々員。
(第十回帝展出品)
明治十八年埼玉縣生、初め淺井忠について學び、三十九年鹿子木孟郎と共に渡歐、四十二年歸朝し太平洋畫會、フューザン會等に出品したが文展にも出した、舊帝展審査員一回、東光會々員。

147 故 佐伯祐三 煉 瓦 燒 (昭和四年)

兵庫縣 山本 發次郎 氏 藏

148 鈴木信太郎 三 番 叟 (八王子 車人形踊) (昭和四年)

東京 作 者 藏

(第十六回二科展出品)
明治二十八年八王子生、白馬會研究所に學び又石井相亭に師事す、二科會々員。

149 和田 三造 ホンペイを想ふ (昭和四年)

神戸 跡部 操 氏 藏

150 池部 鈞 踊 (第十四帝展出品) (昭和五年)

東京 作 者 藏

(第十一回帝展特選)
明治十九年東京生、四十三年東京美術學校を出づ、舊帝展無鑑査、第二部會々員。
151 石川 寅治 蘇 州 の 春 (昭和五年)

東京 作 者 藏

(第十一回帝展出品)
明治八年高知に生る。不同舎に學び三十八年より四十年まで外遊、帝展審査員、東京高等師範學校講師。

152 伊原宇三郎 楊上の二裸婦 (昭和五年)

大阪 岸本 兼太郎 氏 藏

(第十一回帝展特選)
明治二十七年徳島生、東京美術學校を大正十年に出て、十四年から滯佛四ヶ年、舊帝展審査員、第二部會々員、東京美術學校助教。

153 岡田三郎助 金 時 山 (昭和五年)

侯爵 伊達 宗彰 氏 藏

(春回展出品)

154 木村 莊八 歌 妓 支 度 (昭和五年)

東京 作 者 藏

(第八回春陽會展出品)

明治二十六年東京生れ、白馬會研究所に學び初めフューザン會に據り、大正五年岸田劉生、椿貞雄氏らと草土社を起す、後春陽會々員となる。

155 兒島善三郎 五 人 の 女 (昭和五年)

東京 作 者 藏

(第十七回二科展出品)

明治二十六年福岡生、本郷洋畫研究所を出で、外遊一回、二科會々員であつたが獨立美術協會創立に際し参加す。

156 故 小出櫛重 裸 女 (昭和五年)

大阪 右近 權左衛門 氏 藏

(第十七回二科展出品)

明治二十年大阪に生る。大正三年東京美術學校卒業、大正十年渡歐、十二年二科會會員となる、昭和六年歿、年四十六。

157 小絲源太郎 暮 春 閑 情 (昭和五年)

伯爵 東 伏 見 家 藏

(第十一回帝展特選)

明治二十年東京生、四十四年東京美術學校卒業、舊帝展審査員二回。

158 中村 研一 弟 妹 集 ぶ (昭和五年)

大阪 住 友 俱 楽 部 藏

(第十一回帝展出品、帝國美術院賞)

明治二十八年福岡生、大正九年東京美術學校を出づ、外遊一回、昭和五年本圖によつて院賞を得、舊帝展審査員二回、第二部會々員、サロン・ドートントヌ會員。

159 鍋井 克之 奈 良 の 月 (昭和五年)

男 爵 住 友 吉 左 衛 門 氏 藏

(第十八回二科展出品)

明治二十一年大阪生、大正四年東京美術學校を卒へ、俳伊に遊學す、二科會々員。

160 長谷川 昇 レクチュール (昭和五年)

東京 堀 越 震 六 氏 藏

(第七回春陽會展出品)

明治十九年若松に生る。四十三年東京美術學校卒業、外遊二回、春陽會々員である。

161 南 薰造 鶴 渡 る (昭和五年)

侯 爵 廣 幡 忠 隆 氏 藏

(第十一回帝展會員出品)

162 矢島 堅土 室

内 (昭和五年)

大阪 小林太吉氏藏

(第十一回帝展特選)

明治二十八年福山に生る。舊帝展無鑑査、第二部會會員。

163 安井曾太郎 婦

人 像

(昭和五年)

京都 上河 源右衛門氏藏

(第十七回二科展出品)

164 横堀角次郎 帝

大 構

内

(昭和五年)

東京 金子 孚水氏藏

(第八回春陽會展出品)

明治三十年群馬縣生、春陽會會員。

165 故 佐分 眞

貧しきカツフエの一隅

(昭和五年)

男 爵 三井 高總氏藏

166 故 三岸好太郎

マリオネット

(昭和五年)

東京 三岸 せつ子氏藏

167 橋本八百二 裂

傷

(昭和五年)

東京 作 者藏

畫材を多く勞動者にとり、常に大作を描く人。

168 有島 生馬

熊谷守一像

(昭和六年)

東京 作 者藏

(第十八回二科展出品)

明治十五年横濱に生る。外國語學校卒業後ローマ、パリの兩美術學校に學ぶ、外遊三回、二科會の重鎮であつたが現在は帝國美術院會員、二科會名譽會員。

169 石井 柏亭 古

器

(昭和六年)

東京 作 者藏

(第十八回二科展出品)

170 内田 巖

青衣の婦人

(昭和六年)

東京 作 者藏

(同年光風會における滯歐作特別陳列)

故内田魯庵の息、明治三十三年生、大正十五年東京美術學校を出で、帝展に出品した、元第二部會會員。

171 梅原龍三郎、裸婦圖

(昭和六年)

神奈川県 福島繁太郎氏藏

172 曾宮一念、けし畑

(昭和六年)

大阪 八木正治氏藏

(第十八回二科展出品)

明治二十六年東京生、東京美術學校を大正五年に出で、曾て藤島武二、山下新太郎、中村彝に師事した、元二科會々員で現在は獨立洋畫協會々員。

173 高岡徳太郎、I氏立像

(昭和六年)

大阪 飯田慶三氏藏

(第十八回二科展出品、二科賞)

明治三十五年堺に生る。天彩畫塾、本郷研究所に學ぶ、滯歐二年、二科會會友。

174 東郷青兒、手術室

(昭和六年)

東京 作者藏

(第十七回二科展出品)

明治三十年東京生、大正十年より昭和三年までフランスに滞在、二科會會員。

175 中山巍、笛吹き

(昭和六年)

倉敷 大原孫三郎氏藏

176 福澤一郎、驚けるディアナ

(昭和六年)

岡山 河本太仁治氏藏

(第一回獨立展出品)

明治二十六年岡山生、東京美術學校を出で、大正十一年より昭和三年まで滯佛、二科會友であつたが、現在は獨立美術協會々員。

177 故満谷國四郎、早春の庭

(昭和六年)

倉敷 大原孫三郎氏藏

(第十二回帝展出品)

178 山下新太郎、少女立像

(昭和六年)

大阪 伊藤忠兵衛氏藏

(第十八回二科展出品)

明治十四年東京生、明治二十七年東京美術學校を出で渡佛二回。帝國美術院會員、二科會名譽會員。

179 石井鶴三、老婦念佛

(昭和七年)

栃木縣 須藤忠藏氏藏

(第一回春陽會展出品)
明治二十年東京生。洋畫を不同舎に、彫刻を加藤景雲に學び、又東京美術學校に入り、彫刻選科を卒業、日本美術院同人、春陽會々員、帝國美術院參與。

180 恩地孝四郎 幼女浴後 (版畫) (昭和七年)

東京 北原鐵雄氏藏

(第十三回帝展出品)
明治二十四年東京生、白馬會研究所、東京美術學校修了、二科會及び舊帝展へ出品、日本創作版畫、協會同人。

181 小磯 良平 裁縫女 (昭和七年)

東京 美術學校藏

(第十三回帝展特選)
明治三十六年神戸に生る。昭和二年東京美術學校を卒へ、昭和三、四年滯歐、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

182 小林徳三郎 へちまの窓 (昭和七年)

東京 作 者藏

(第十一回春陽會出品)
明治十七年廣島縣生、四十二年東京美術學校を出づ、春陽會々員。

183 清水 登之 陶土の丘 (昭和七年)

東京 作 者藏

(第二回獨立展)
明治二十年栃木縣生、明治四十年より昭和二年まで米佛に遊學、獨立美術協會々員。

184 田口 省吾 新聞を読むコンシエルジュ (昭和七年)

東京 作 者藏

(第十九回二科展出品)
明治三十年秋田縣生、大正十年東京美術學校を出で、滯佛四年、二科會々員となる。

185 藤島 武二 大王岬に打ちつける激浪 (昭和七年)

侯爵 細川護立氏藏

(第十三回帝展出品)

186 前川 千帆 湖の見える室 (昭和七年)

東京 作 者藏

(第十三回帝展出品)
明治二十一年京都に生る、畫を關西美術院に學び、漫畫及び版畫を作る、春陽會々員。

187 牧野 虎雄 村の娘達

(昭和七年)

兵庫縣 岩田 希芳氏 藏

(第十三回帝展出品)

明治二十三年高田生、大正二年東京美術學校を卒へ、舊帝展審査員をなすこと八回、第二部會々員、旺玄社同人。

188 故 滿谷國四郎 緋毛氈

(昭和七年)

兵庫縣 山口 吉郎兵衛氏 藏

(第十三回帝展出品、朝日賞)

189 故 森田恒友 尾瀬沼

(昭和七年)

東京 山口 吉郎兵衛氏 藏

(東京三越展出品)

明治十四年に埼玉縣生れ、小山正太郎、中村不折に師事し、大正三、四年歐洲に遊び、後大に進む又新南畫を描く。元春陽會々員、昭和八年歿、年五十三。

190 山下 繁雄 軍鶏

(昭和七年)

大阪 油谷 美枝氏 藏

(第十三回帝展特選、昭和賞)

明治十六年東京に生れ、不同舎に學ぶ、太平洋畫會々員、舊帝展無鑑査、第二部會々員、

191 青山 義雄 ビヤニスト シェルマル・シエックス (昭和八年)

鎌倉 福島 繁太郎氏 藏

(第十一回春陽會展出品)

明治二十七年神奈川縣生、日本水彩畫研究所にて研究し、後渡佛、マチスに師事す、元春陽會々員、國畫會々員。

192 伊藤 廉 虎

(昭和八年)

名古屋 大阪朝日新聞支社 藏

(第三回獨立展出品)

明治三十一年名古屋に生る。大正十四年東京美術學校を出で、滞歐四年、獨立美術協會會員となる。

193 太田 三郎 モデルたち (昭和八年)

東京 作者 藏

(第十四回帝展出品)

明治十七年愛知縣生、寺崎廣業、黒田清輝に師事す、大正九年外遊、舊帝展審査員、第二部會々員。

194 栗原 信 四月の妙高山 (昭和八年)

大阪 岸本 兼太郎氏 藏

(第二十回二科展出品)

明治二十七年茨城縣生、茨城縣師範學校を出で、昭和三年より四年間滯佛、二科會々員。

195 里見 勝藏 女 (昭和八年)

仙台 大川 松之進 氏藏

(第三回獨立展出品)

明治二十八年京都生、大正八年東京美術學校を出で、滯歐四年、現に獨立美術協會々員である。

196 三田 康 二 人 像 (昭和八年)

東京 波多野 春房 氏藏

(第十四回帝展出品)

明治二十二年大津に生る。大正十一年東京美術學校卒業、帝展出品、帝展第二部會々員。

197 中川 一政 山川 呼 應 (昭和八年)

東京 作 者藏

(九年第十二回春陽會展出品)

明治二十六年東京生、草土社、二科會等に出品したが今は春陽會々員である。

198 裕 伊之助 室 よ り (昭和八年)

東京 鈴木 由郎 氏藏

(第二十回二科展)

199 林 武 裸 婦 (昭和八年)
明治二十八年東京生、大下藤治郎、石井相亭、白瀧茂之助に學び渡歐二回、マチスに師事す、元春陽會二科會々員。

和歌山 明樂 佐一郎 氏藏

(第三回獨立展出品)

明治二十九年東京に生る。日本美術學校修了、外遊二年、元二科會々友、現獨立美術協會々員。

200 正宗得三郎 初 秋 の 窓 (昭和八年)

東京 作 者藏

(第二十回二科展出品)

201 阿以田治修 半 僧 池 (昭和九年)

東京 作 者藏

(第十五回帝展出品)

明治二十七年東京生。大正十一年より十四年まで外遊、舊帝展審査員二回、第二部會々員。

202 上野山清貢 ある日の廣田外相 (昭和九年)

東京 廣田 弘毅 氏藏

(第十五回帝展出品)

明治二十二年北海道生、太平洋畫會研究所にて修業、舊帝展無鑑査。

203 岡田 謙三 馬

(昭和九年)
東京 永富花子氏藏

(第二十一回二科展出品)
二科會々友。

204 川口 軌外 少女と貝殻

(昭和九年)
東京 作 者藏

(第四回獨立展出品、京都朝日會館壁畫原圖)

明治二十五年和歌山縣生、太平洋畫會研究所、美術院洋畫部にて研究、滯歐十年、獨立美術協會會員

205 佐竹徳次郎 鯉

(昭和九年)
東京 作 者藏

(第十五回帝展出品)

明治三十年大阪生、關西美術院に學ぶ、舊帝展無鑑査、第二部會々員。

206 鈴木 保徳 立てる子供

(昭和九年)
東京 作 者藏

(第四回獨立展出品)

明治二十四年東京生、大正三年東京美術學校卒業、獨立美術協會會員、

207 鳥海 青兒 アラビヤ風の家と海

(昭和九年)
東京 作 者藏

(第十二回春陽會展出品)

明治三十五年神奈川縣生、關西大學卒業、春陽會々員。

208 野口 謙藏 五月風景

(昭和九年)
滋賀縣 作 者藏

(第三回東光會展出品)

大正十三年東京美術學校卒業、舊帝展特選二回、東光會々員。

209 野口彌太郎 港のキャッフェー (下繪) (昭和九年)

東京 作 者藏

(第四回獨立展出品)

明治三十二年東京生、關西學院卒業、滯歐五年、獨立美術協會々員となる。

210 林 重義 舞 妓

(昭和九年)
兵庫縣 池田 仁左衛門 氏藏

(第四回獨立展出品)

明治二十五年大分縣生、鹿子木孟郎に師事し、昭和三年外遊、獨立美術協會々員。

211 水谷 清 了 ネ モ ネ (昭和九年)

東京 作

者 藏

212 宮本 三郎 家 族 席 (昭和九年)

東京 作

者 藏

213 向井 潤吉 争へる 鹿 (昭和九年)

兵庫縣 武田深藏氏藏

214 山下新太郎 海 棠 (昭和九年)

東京 作 者 藏

215 須田國太郎 水 浴 (昭和十年)

京都 作 者 藏

216 田中善之助 舞 妓 (昭和十年)

東京 堀口熊二氏藏

217 平塚 運一 百 濟 舊 都 (版畫) (昭和十年)

東京 作 者 藏

218 眞野紀太郎 ば ら (昭和十年)

東京 薩摩三郎輔氏藏

219 宮坂 勝 大 同 江 畔 (昭和十年)

京 城 有賀光豊氏藏

(第十回國畫會出品)
明治二十八年長野縣生、大正八年東京美術學校卒業、滯佛五年、國畫會々員。

年代未詳

220 故 土岐芳助 朝

露

東京 櫻井成夫氏藏

文展時代に出品して異色ありし畫家。

彫 刻

1 故 ラグーザ

お

玉

像

(明治初年)

東京 美術學校藏

イタリーの彫刻家、一八四一年シチリヤに生る。二十五歳にして彫塑に志し、一八七五年日本に派遣せらるべき競技に首席を占め、明治九年來朝。洋風彫刻を我國に傳ふ。藏田文藏、大熊氏廣らはその門下である。

2 故 石川光明

白

衣

觀

音

(明治二十六年)

東京 帝室博物館藏

(シカゴ萬國博覽會出品)
嘉永五年淺草に生る。東京美術學校教授、帝室技藝員たり。大正二年歿、年六十二。

3 故 山田鬼齋

平治物語行列

(明治二十六年)

東京 帝室博物館藏

(シカゴ萬國博覽會出品)
元治元年生。父に佛像彫刻を、繪を中島來章に學ぶ。二十三年以來東京美術學校に奉職、二十六年鬼齋と改む。三十四年歿、年三十八。

4 故 高村光雲 猫

(明治二十八年)

東京 高村 豊 周 氏 藏

(昭和八年朝鮮德壽宮展出品)
嘉永五年淺草に生る。高村東雲の門に入り、木彫を學ぶ。後高村の姓をつぐ。東京美術學校教授であつた。帝室技藝員、帝國美術院會員、東京美術學校名譽教授たりしが、昭和九年歿した、年八十三。

5 故 竹内久一

内 裏 雛

(明治三十年)

京都 渡邊 初 男 氏 藏

安政四年江戸淺草に生れ、明治二十一年東京美術學校教授となり、三十九年帝室技藝員を拜命。石川光明、高村光雲とともに明治彫刻界の三大家と稱せられる。大正五年歿、年六十。

6 長沼 守敬

老人の頭

(明治三十一年ごろ)

東京 美術學校 藏

(一九〇〇年巴里大博覽會金牌)
安政四年岩手縣生。十四年二十五歳の時、イタリイに赴きヴェニス美術學校に入學。卒業して二十年歸朝。文展には一回より七回まで審査員をなしたが、大正三年美術界を引退した。

7 故 荻原守衛

北條 虎吉の像

(明治四十二年)

東京 大日本製罐會社 藏

8 故 米原雲海

天

樂

(明治四十四年)

東京 鍋倉 直 氏 藏

(第三回文展三等賞)
長野縣穂高村に生れ、初め小山正太郎の不同舎に洋畫を學んだが、後アメリカからフランスに渡りロダンを學んで彫刻に志した。歸朝後文展に出品して毎回優賞を得、未來を囑望されたが、明治四十三年、年齢僅かに三十二にして歿した。

9 藤井 浩祐

トロを待つ坑夫

(大正三年)

文 部 省 藏

(第八回文展三等賞)

明治十五年東京に生る。明治四十年東京美術學校を卒業し、文展に毎回出品して優賞を得たが、大正五年日本美術院同人となり、以後院展に出品、帝國美術院會員に擧げられて後同人を辭す。

10 池田 勇八

坂

路

(大正四年)

東京 川村 孝太郎 氏 藏

(第九回文展出品)

明治十九年高松市に生る。明治四十年東京美術學校卒業、文、帝展にて特選三回、委員たること四回、現に第三部會員である。

11 堀 進二 H 老人の肖像 (プロ) (大正五年)

大阪 堀 良秀氏藏

(第十回文展特選)

明治二十三年東京に生る。初め新海竹太郎につき、後太平洋畫會研究所に入つて彫刻を學ぶ。帝展審査員六回、帝國美術院指定。

12 吉田 芳明 辨天島の御輿 (大正五年)

東京 津谷 宇之助氏藏

明治八年東京生。島村俊明に師事し、舊帝展審査員たること二回。

13 吉田 三郎 老坑夫 (大正八年)

東京 作 者藏

(第一回帝展特選)

明治二十二年金澤に生る。東京美術學校出身、昭和六年外遊、舊帝展審査員七回、帝國美術院指定。

14 故 中原悌次郎 H の像 (プロ) (大正八、九年頃)

東京 平柳田 中氏藏

明治二十一年北海道に生れ、洋畫を中村不折に、彫塑を新海竹太郎に學ぶ。大正七年日本美術院同人となる。大正十年歿、年三十四。

15 北村 西望 源 泉 (鑄銅) (大正九年)

東京 作 者藏

(第二回帝展審査委員出品)

明治十七年長崎縣生れ、京都工藝學校及び東京美術學校に學び、大正八年帝展審査員となり、十四年帝國美術院會員に推される。東京美術學校教授。

16 故 戸張孤雁 無 (大正九年)

東京 藤澤 勝五郎氏藏

(第七回院展出品)

明治十五年東京に生れ、三十四年アメリカに遊學し、三十九年歸朝。彫刻を獨修して文展に出品後院展に出品して遂に日本美術院同人となる。昭和二年歿、年四十六。また版畫家としても知られてゐる。

17 平櫛 田中 轉 生 (木彫) (大正九年)

東京 作 者藏

(第七回院展出品)

明治五年岡山縣に生る。中谷省吉、高村光雲らに學び、大正三年第一回院展に出品して同人に推される。帝國美術院會員。

18 後藤 良 必 妃 (大正十年)

東京 長尾 欽彌氏藏

(第三回帝展無鑑査特選)
明治十五年東京生。二十五年東京美術學校卒業。舊帝展において審査員をしたこともある。

19 關野 聖雲 鴛 屈 摩 (木彫) (大正十一年)

東京 近江秀明氏藏

(第四回帝展無鑑査出品)

明治二十二年神奈川縣生。高村光雲に師事し、更に四十四年東京美術學校を出づ。後同校教授となり、舊帝展審査員たること二回、帝國美術院指定。

20 故 天岡均一 蛙 (大正十二年)

大阪 天岡落香氏藏

(第十回院展出品)

三田町の人。東京美術學校を出で、初め文展に出品したが、後院展に出品す。大正十三年歿、年五十。

21 雨宮 治郎 慈 母 (大正十三年)

東京 作 者藏

(復興記念彫塑會同展)

明治二十二年水戸に生る。大正九年東京美術學校を出で、舊帝展審査員たること二回、後帝國美術院指定となる。

22 石井 鶴三 婦 人 像 (大正十三年)

東京 作 者藏

(第十三回院展出品)

明治二十年東京に生れた。夙に洋畫に志し、不同舎に入り、また加藤景雲について彫刻を學ぶ。四十三年東京美術學校卒業、大正五年日本美術院同人となる。また春陽會々員で、帝國美術院指定に推される。

23 石川 確治 探 藥 (光明皇后) (大正十三年)

伯爵 柳澤保承氏藏

(第五回帝展委員出品)

明治十八年山形縣生。東京美術學校に入つて二十八年卒業、帝展審査員たること四回、第三部會員。

24 朝倉 文夫 綠 の 陰 (大正十四年)

東京 作 者藏

(第六回帝展出品)

明治十六年豊後に生る。四十年美術學校卒業、文展第十回より審査員に擧げられ、現に帝國美術院會員、東京美術學校教授である。

25 故 橋本平八 少女 立 像 (大正十四年)

宇治山田 堀口秀男氏藏

26 小倉右一郎 蜜

(石膏) (大正十五年)
東京 作 者 藏

明治二十年三重縣に生る。佐藤朝山に師事す。日本美術院展覽會出品

27 故 新海竹太郎 老

子 (大正十五年)
東京 新海覺雄氏 藏

(第七回帝展委員出品)
明治十四年香川縣に生る。明治四十年東京美術學校を出で、帝展審査員たること五回。帝國美術院指定、第三部會員。

28 保田 龍門

裸男女群像 (ブゾ) (大正十五年)

和歌山縣 島村安次郎氏 藏

(第十四回院展出品)
明治二十四年和歌山縣龍門村に生る。東京美術學校洋畫科を出で、更に彫塑を藤井浩祐に學ぶ。日本美術院同人。

29 内藤 伸

光明皇后 (昭和二年)

東京 作 者 藏

30 故 中牟田三治郎 髮

(石膏) (昭和二年)

東京 齋藤素巖氏 藏

(第八回帝展委員出品)
明治十五年島根縣に生れ、夙に高村光雲につき、また東京美術學校に學ぶ。初め文展に出品し、大正三年日本美術院に入り同人となつたが、大正七年脱退し、再び帝展に出品、遂に帝國美術院會員となる。

31 故 矢野誠一 短

夜 (木彫) (昭和二年)

大阪 白川朋吉氏 藏

明治二十五年福岡縣に生れ。東京美術學校卒業後、京都帝大講師となり、なほ構造社會員となり、昭和四年歿、年三十九。

32 渡邊 長男

蛟龍登天 (ブゾ) (昭和二年)

衝立 作 者 藏

33 故 石本曉海

藤の花咲くころ (木彫) (昭和三年)

京都銀行集會所 藏

明治七年竹田町に生る。朝倉文夫の兄、山田鬼齋に學ぶ、後東京美術學校を出づ。

(第九回帝展出品)

明治二十一年島根縣に生る。米原雲海に師事す。帝展推薦となる。

34 加藤 顯清 坐

像 (昭和三年)

東京 作 者 藏

(三春會展出品)

明治二十七年愛知縣生。大正九年東京美術學校卒業、舊帝展審査員一回、帝國美術院指定。

35 北村 正信 新

綠 (大理) (昭和三年)

大阪 岸本兼太郎氏藏

(第九回帝展無鑑査出品)

明治二十二年新潟縣に生れ、彫刻を北村四海に學び、また洋畫を太平洋畫會研究所に學んだ。後四海氏の嗣子となる。舊帝展審査員四回、帝國美術院參與。

36 佐々木大樹 紫 津

久 (木彫) (昭和三年)

東京 馬場正治氏藏

(第九回帝展、帝國美術院賞)

明治二十二年富山縣生れ。大正二年東京美術學校卒業、舊帝展審査員たりしこと二回に及ぶ。

37 佐藤 朝山 牝

猫 (昭和三年)

東京 青田幸吉氏藏

(第十五回院展出品)

明治二十年福島縣に生る。山崎朝雲に木彫を學び、再興日本美術院第一回展に同人に推さる。帝國美術院會員。

38 濱田 三郎 姉

妹 (大理) (昭和三年)

大阪 有馬賴吉氏藏

(第二回構造社展)

明治二十五年函館に生る。大正七年東京美術學校を出で、後構造社會員となる。

39 故 藤田文藏 龍

(昭和三年)

東京 羽生慎氏藏

文久元年鳥取に生れ、上京してラグーザに師事し、明治十五年工部大學美術學校卒業、後東京美術學校教授となり、その後女子美術學校を創立す。昭和九年歿、年七十四。

40 吉田 久繼 髮

(昭和三年)

東京 作 者 藏

(第九回帝展審査員出品)

明治二十一年東京生。大正二年東京美術學校卒業、舊帝展審査員二回、第三部會員。

41 田村 審火 ア レ グ

口

(昭和四年)

東京 鮫島龜之助氏藏

42 渡邊 義知 裸婦

東京 作 者藏 (昭和四年)

(第二回聖徳太子奉還展)
明治三十三年旭川生。セルゲイツチ、北村西堂に師事した。東邦彫塑院會員、舊帝展出品。

43 荻島 安二 Kの像

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第十六回二科展出品)
明治二十二年東京生。彫刻は獨學である。昭和七年外遊。二科會々員。帝國美術院指定。

(新油繪展出品)

明治二十八年横濱生。構造社會員、帝國美術院無鑑査。

44 喜多武四郎 釋迦三尊

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第十七回院展出品)

明治三十年東京生。川端畫學校修業、日本美術院同人、帝國美術院指定。

45 齋藤 素巖 タイスイ

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第四回構造社展出品)

46 中野 桂樹 瑞應

男 應 (昭和五年)

明治二十二年東京に生る。四十五年東京美術學校卒業、渡英して倫敦のロイヤル・アカデミイに學ぶ、構造社會員。

(第十一回帝展特選)

明治二十六年青森縣生れ。舊帝展無鑑査、帝國美術院指定。太平洋畫會々員。

47 山崎 朝雲 觀音大士

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第十一回帝展審査員出品)

明治元年福岡市に生れ、高田又四郎、高村光雲に學ぶ。文展第四回より審査員となる。帝國美術院會員、帝室技藝員、門下に松尾朝春、佐藤朝山らがある。

48 笠置 季男 腰かけたる裸婦

兵庫縣 小林謙一氏藏 (昭和六年)

(第十八回二科展出品、二科賞)

明治三十四年兵庫縣生。昭和三年東京美術學校卒業、二科會々友、帝展無鑑査。

49 建島 大夢 福原隼二郎先生

帝國美術院藏 (昭和六年)

42 渡邊 義知 裸婦

東京 作 者藏 (昭和四年)

(第二回聖徳太子奉還展)
明治三十三年旭川生。セルゲイツチ、北村西堂に師事した。東邦彫塑院會員、舊帝展出品。

43 荻島 安二 Kの像

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第十六回二科展出品)
明治二十二年東京生。彫刻は獨學である。昭和七年外遊。二科會々員。帝國美術院指定。

(新油繪展出品)

明治二十八年横濱生。構造社會員、帝國美術院無鑑査。

44 喜多武四郎 釋迦三尊

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第十七回院展出品)

明治三十年東京生。川端畫學校修業、日本美術院同人、帝國美術院指定。

45 齋藤 素巖 タイスイ

東京 作 者藏 (昭和五年)

(第四回構造社展出品)

明治十三年有田に生る。初め京都工藝學校に學び、明治四十四年東京美術學校卒業、のち同校教授となる。大正八年以來帝展審査員、舊帝國美術院會員、新帝國美術院會員。

50 橋本 朝秀 悉

地 (木彫) (昭和六年)

東京 作 者 藏

(第十二回帝展特選)

明治三十二年福島縣生。山崎朝雲に師事す。本郷研究所にて修業、舊帝展無鑑査、東邦彫塑院會員。

51 日名子實三 女

性 (大理) (昭和六年)

東京 作 者 藏

(第五回構造社展出品)

明治二十六年大分縣生。大正七年東京美術學校卒業、昭和四年外遊、舊帝展無鑑査、第三部會員

52 山根 八春 榻によりて

(昭和六年)

東京 美術學校 藏

(第十二回展出品、政府買上品)

明治十九年島根縣に生る。舊帝展審査員一回、帝國美術院指定。

53 故 陽 咸二 三つの眠り

(昭和六年)

兵庫縣 有馬 賴吉氏 藏

(第五回構造社展出品)

明治三十一年東京に生れ、東京美術學校出身、小倉右一郎に師事す。構造社會員。

54 國方 林三 坐せる女

(昭和七年)

東京 作 者 藏

(第十三回帝展出品)

明治十六年香川縣に生る。太平洋畫會研究所にて研究、新海竹太郎を師とす。舊帝展審査員四回、帝國美術院參與。

55 澤田 晴廣 華

炎 (昭和七年)

東京 美術學校 藏

(第十三回帝展出品、政府買上品)

明治二十八年静岡縣生。東京美術學校修業、山本瑞雲に師事、帝展審査員二回、帝國美術院參與、木彫會會員。

56 高村光太郎 黒田清輝先生像

(昭和七年)

東京 美術學校 藏

明治十六年下谷に生る。高村光雲の息、東京美術學校を出でて後、歐米に遊學數年、彫刻をもつて畏敬せらるれども公の展覽會には殆んど發表せず、國畫會會員。

57 故 藤川勇造

ミスター・ボス (鑄造) (昭和七年)

東京 藤川 榮子氏 藏

(第十九回二科會出品)
明治十六年高松に生る。東京美術學校卒業後、渡佛八年におよぶ。二科會々員、昭和十年歿、年五十二。

58 大内 青圃 クリシユナの扉 (昭和八年) 相馬愛藏氏藏

(第二十回院展出品)
明治三十一年東京生。大正十一年東京美術學校を卒ふ。大内青坡、水谷鐵也に師事。日本美術院同人、帝國美術院指定。

59 新海 竹藏 出羽ヶ嶽等身像 (昭和八年) 東京作 者藏

(第二十回院展出品)
明治三十年山形生。新海竹太郎に師事し、日本美術院同人。帝國美術院指定。

60 堀江 尙志 鯉 (昭和八年) 東京 内田英雄氏藏

(第十四回帝展出品)
明治四十年盛岡に生れ、東京美術學校卒業、朝倉文夫に師事、元帝展審査員。

61 松村外治郎 女の顔 (昭和八年) 東京作 者藏

(第二十回二科會出品)
明治三十四年富山縣に生る。昭和四年東京美術學校卒業、外遊一回、二科會々友たり。

62 三國 慶一 風 (木彫) (昭和八年) 東京作 者藏

(第十四回帝展出品)
明治三十二年弘前に生れた。東京美術學校を大正十五年に出で、舊帝展無鑑査。

63 村田勝四郎 少女 (昭和八年) 東京作 者藏

(第三回塊人社彫壇展出品)
明治三十四年大阪に生る。大正十四年東京美術學校卒業、舊帝展特選二回、塊人社同人。

64 森野 圓象 蹴球 (昭和八年) 東京作 者藏

(第十四回帝展特選)
明治三十六年横須賀生れ。内藤伸に師事し、舊帝展にて特選を二回とる。

65 大國 貞藏 惜しみなく春を歡喜せよ (昭和九年) 兵庫縣作 者藏

明治二十三年大阪生。大正五年東京美術學校卒業、朝倉門、昭和四、五年外遊、元帝展審査員二回。

66 小笠原貞弘 小品 第十五 (昭和九年)

東京 吉田 信氏藏

(第十五回帝展出品)

明治二十六年栃木縣生。大正十一年東京美術學校を出づ。舊帝展無鑑査、塊人社同人。

67 長谷川榮作 蘇峰先生 (昭和九年)

東京 鹽崎彦市氏藏

(第十五回帝展出品)

明治二十三年東京生れ。吉田芳明に師事、舊帝展審査員五回、帝國美術院參與。

68 松田 尙之 むすめ (昭和九年)

東京 作 著藏

(第十五回帝展出品)

明治三十一年金澤に生る。東京美術學校を大正十一年に出で、舊帝展審査員一回、京都大學講師、京都美術工藝學校教員。

69 三木 宗策 羅馬少年使節 (昭和九年)

東京 美術學校藏

(第十五回帝展出品)

明治二十四年郡山生れ。山本瑞雲に師事し、舊帝展審査員たること二回、帝國美術院指定。

70 山本 豊市 阿伝 (一對) (昭和九年)

東京 出羽海 梶之助氏藏

(第二十一回院展出品)

明治三十一年東京に生る。太平洋畫會を修業、戸張孤雁、マイヨールに師事す。滯佛四年半、日本美術院同人、日本大學藝術科美術主任。

71 吉田 白嶺 鷓鴣 (昭和九年)

東京 田村憲造氏藏

明治四年東京に生る。彫刻を獨學し、現に日本美術院同人たり。

74 故 北村四海 女の胸像

大阪 山口 吉郎兵衛氏藏

明治四年長野市に生る。父に彫刻を學び、三十三年フランスに遊學、のち帝展委員となる。昭和二年歿、年五十七。

75 故 木村五郎 前垂を冠る婦人 (木彫)

東京 牧野司郎氏藏

明治三十二年東京に生る。日本美術院にて修業、後日本美術院同人となる。

76 故 黒岩淡哉 小楠公の像

大阪 作 書藏

77 故 白井雨山 太田道灌像

明治五年東京府生。東京美術學校卒業、大阪西野田職工學校教諭。

東京美術學校藏

元治元年宇和島に生れ、明治二十六年東京美術學校卒業、三十四年外遊、三十七年歸朝、大正九年まで東京美術教授であつた。また文展審査員たりしこともある。昭和三年歿、年六十五。

78 故 島村俊明 武者人形 (木彫)

東京 吉田芳明氏藏

安政二年江戸淺草に生れ、父について彫刻を學ぶ。明治十二年龍池會を起す。牙彫を以て鳴る。明治二十九年歿、年四十二。

79 故 牧 雅雄 藤澤氏胸像 (ワグ)

神奈川縣 牧 テル子氏藏

明治二十一年神奈川縣に生る。太平洋畫會に修業、日本美術院同人であつた。

80 故 松尾朝春 翁

東京 葉山健二郎氏藏

明治十八年福岡市に生れ、山崎朝雲につき、帝展に出品して昭和二年推薦となる。また帝展委員をもなしてゐた。昭和四年歿、年四十六。

美術工藝

(五十音順)

① 木彫及牙彫

1 故旭 玉山 鬮髹形置物 (象牙彫)

一個

東京帝室博物館藏

牙彫の大家。初め僧となり二十四歳の時還俗す。定まれる師なし。大醫家につきて研究し、人物禽獸ともに精巧ならざるなし。殊に鬮髹は眞に温れり。大正十二年歿、年八十三。

2 故浅井寛哉 ヴィーナスの置物 (萬寶貝彫刻)

一個

東京 水産講習所藏

名は勝治郎、法輪師と號す。人物禽獸の平彫に長ず。嘉永五年生。大正十二年歿。

3 故石川光明 牧 童 (象牙薄肉彫)

童 (象牙薄肉彫)

東京美術學校藏

江戸に生る。家は世々彫刻を業とす。牙木彫に長じ、東京美術學校教授、帝室技藝員となる、大正二年歿、年六十二。

4 故森川杜園 能人形置物

壹組

東京帝室博物館藏

文政三年奈良に生る。一刀彫を以つて身を立てんとし、専心、奈良人形を彫つた。三十一歳の時弟に家を譲り、安政三年春日若宮の大宿所前繪師職となる。明治に至つて正倉院御物の寫圖を命ぜられたことがある。近世の名彫工、明治二十七年歿、年七十五。

② 金工

5 石田 英一 籠 香 爐

(昭和九年)

長岡 羽賀 虎三郎 氏藏

(第十五回帝展無鑑査出品)

明治九年東京に生る。三十三年東京美術學校を卒業、同校教授となる。滯佛四年、舊帝展審査員、帝國美術院指定。

6 故海野勝珉 地獄極樂銅大鐸

東京 根津 嘉一郎 氏藏

水戸の人。幼にして初代海野美盛、萩谷勝平に彫金の技を學ぶ。後東京美術學校、帝室技藝員たり。大正四年歿、七十二。

7 故 海野美盛 關

(大正八年)

海野 浩太郎 氏 藏

彫金を父に、繪を酒井道一、河鍋暁齋に學ぶ。また明治二十二年京都に赴き、今尾景年につく。後東京美術學校教授たり。大正八年歿、年五十六。

8 海野 清 青金赤銅花器

(昭和八年)

東京 峰島 茂兵衛 氏 藏

(第十四回帝展出品)

明治十七年東京生。四十四年東京美術學校を出で、後同校教授となる。舊帝展審査員、帝國美術院參事。

9 故 岡崎雪聲 辨財天像額

壹面

東京帝室博物館 藏

東京美術學校教授にして、近世鑄金界の名家の一人なり。大正十年歿、六十八。

10 故 岡部覺彌 色金製深林圖額

東京美術學校 藏

射石と號す。筑前の人、明治二十八、東京美術學校卒業、直ちに助教に任ぜられ、歐米に遊學す。大正七年歿、年四十六。

11 故 大國栢齋 手取形霰釜

東京 正木王彦氏 藏

安政三年大阪生。昭和九年歿、年七十九。

12 大島 如雲 圓額濡獅子圖

一面

東京美術學校 藏

輿利における古今獨歩の名匠。香取秀眞氏の師、東京美術學校講師、東京鑄金會會員。

13 故 香川勝廣 四分一花瓶八景圖

東京 鈴木寅彦氏 藏

東京下谷に生る。彫金を以て東京美術學校教授、帝室技藝員たり。大正六年歿、年六十五。

14 香取 秀眞 鑄銅八角飾箱

(昭和三年)

東京 作 者 藏

明治七年千葉縣に生る。三十年東京美術學校卒業、後同校教授となる。帝室技藝員、帝國美術院會員。

15 桂 光春 楠

公 (櫨銀) (大正十四年)

東京 高尾祐治郎氏 藏

(日本美術協會審査員出品)

16 故 加納夏雄 月に雁の圖額

明治四年東京に生る。豊川光長門、舊帝展無鑑査。

一面

東京帝室博物館 藏

17 北原 千鹿 花 置 物

毛彫に長じ、金屬彫刻の泰斗。文政十一年京都に生る。池田孝壽に彫金を學び、書を中島來章に學ぶ。安政元年江戸に移る。東京美術學校教授、帝室技藝員となる。明治三十一年歿、七十一。

(昭和二年)

新潟縣 桂 恕佑氏 藏

(第八回帝展出品)

名子祿。明治二十年高松に生れ、同四十四年東京美術學校を出た。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

18 佐々木象堂 鑄銅飛天置物

(昭和九年)

新潟縣 田卷 堅太郎氏 藏

(第十五回帝展審査員出品)

明治十七年新潟縣生。富田藍堂に師事、舊帝展審査員、帝國美術院參與。

19 清水 龜藏 獅子文香爐

(昭和二年)

作者 藏

(第一回聖德太子展出品)

20 故 正阿彌勝義 雪中南天樹轉圖象嵌臚銀額 一面

明治八年廣島縣生、明治二十九年東京美術學校卒業、同校教授たり。帝室技藝員、帝國美術院會員。

東京帝室博物館 藏

21 杉田 禾堂 鑄銅透文花瓶

(昭和八年)

東京 渡邊省二氏 藏

(第十四回帝展出品)

明治十九年東京に生る。同四十五年東京美術學校を出で、同校講師。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

22 故 鈴木長吉 鷲形置物

一個

東京帝室博物館 藏

嘉永元年生。帝室技藝員であつた。大正八年歿、年七十二。

23 鈴木 美彦 龍之圖

男 爵 安田 一氏 藏

明治十七年東京生。三十六年東京美術學校卒業、帝國美術院無鑑査。

24 高村 豊周 斜交文花筒

(昭和三年)

東京 作者 藏

(第九回帝展特選)

大正四年東京美術學校卒業、同校助教。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

25 故 塚田秀鏡 卷葉箱幽靈圖 (表に柳に月圖)

長岡羽賀虎三郎氏藏

嘉永元年生。土肥氏、幼時出で、塚田氏をつぐ。彫鏤を業として名聲あり、帝室技藝員となる。大正七年歿、享年七十一。

26 津田 信夫 ベンギン置物 (鑄銅) (昭和四年)

東京作 者藏

(第十六回帝展)

明治八年千葉縣生。三十三年東京美術學校を出づ。現に同校教授たり。外遊一回。舊帝展審査員、帝國美術院會員。

27 故 本間琢齋 鑄銅雨龍唐草透模様蓋附手爐

佐渡 本間芳太郎氏藏

佐渡の鑄金家。明治二十四年歿、年八十。小品に優秀なものがある。

28 故 先代 宮崎寒雄 茶の湯釜

石川縣作 者藏

加賀の金工の名家。

29 故 宮地一男 布目象嵌額牡丹圖

東京美術學校藏

30 故 山川茂孝 大盃銀器 (台付)

石川縣 吉田茂平氏藏

加賀の名金工。初代孝次。

31 故 山田長三郎 古紋瓦上鳩置物

石川縣藏

號は宗美。大正五年歿。享年四十六。専ら鐵を用ひて動物の全形を鏤出し、空前の奇巧を示した人。

32 山本 安曇 流金文果物盛 (昭和七年)

長野縣 高田重隆氏藏

(第十三回帝展審査員出品)

明治十八年長野縣生。四十五年東京美術學校を出づ。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

③ 陶磁、七寶、ガラス等

33 淺井 一毫 九谷赤繪菓子鉢

東京 板谷波山氏藏

34 故先代 伊東陶山 錦彩耳付一輪生

京都 住友 吉左衛門氏藏
京都の陶工。大正六年帝室技藝員となる。大正九年歿。

35 伊東 陶山 錦彩鳳凰置物 (昭和十一年)

京都 作 者 藏

明治四年滋賀縣生。先代陶山に師事、舊帝展審査員。

36 故初代 石野龍山 龍花瓶

石川 縣 藏

金澤の陶工。文久元年石川縣に生る。中濱龍淵、垣内雲嶺に師事。各種の釉薬を發明して一新生面を拓く。昭和十一年歿、享年七十六。舊帝展無鑑査。

37 板谷 波山 彩磁孔雀石榴文大花瓶 (昭和二年)

山田 多計治氏藏

(第一回聖德太子展出品)

明治五年茨城縣生。明治二十七年東京美術學校を出づ。昭和三年帝國美術院賞を授けらる。帝室技藝員、帝國美術院會員。

38 故 井上良齋 紫陽花香爐

一個

東京帝室博物館藏

横濱における陶磁の名工。

39 岩田 藤七 吹き込み硝子鉢

東京 山澄力藏氏藏

明治二十六年東京生。大正七年東京美術學校金工科を出で、更に十二年洋畫科卒業、舊帝展無鑑査。

40 故 永樂和全 赤繪金欄鉢

京都 永樂善五郎氏藏

永樂三代。文政六年に生れ、父保全の業をつぐ。明治二十九年歿、年七十五。

41 各務 鑛三 草文硝子花瓶 (昭和九年)

東京 原 安三郎氏藏

(第十五回帝展出品)

明治二十九年岐阜生、大正三年東京高等工業學校卒業、昭和四年ドイツに留學。舊帝展特選。

42 故 加藤友太郎 陶壽紅日の出に松彫刻香盒及香爐

東京 福井常靜氏藏

號は陶壽。尾張瀬戸の窯元の家を生る。若くして東京に出で、洋式陶法を研究し、各種の釉薬を發明す。我が國最初の洋式窯の築造家である。大正五年歿。年六十六。

43 河井寛次郎 陶器角扁壺辰砂染附

東京 柳 宗悦氏藏

44 故 河原徳立 額面陶器

明治二十三年島根縣生。東京高等工業卒業、舊帝展無鑑査。

東京帝室博物館藏

明治六年埃國博覽會に行きて留學し、歸朝後、歐風陶磁の開拓をなす。大正三年歿。

45 河村 蜻山 大鉢

(海の幸) 一對 (大正元年)

大阪 岸本 吉左衛門氏藏

(聖徳太子奉讀展出品)

明治二十三年京都生。京都陶磁試験所にて研究し、舊帝展審査員をなす。

46 故三代 清水六兵衛 赤繪鳳龍花瓶

(明治六年頃)

京都 清水 六兵衛氏藏

祥麟と號す。天保九年父の業を繼ぎ、巧手の名あり。明治十六年、六十二歳をもつて歿す。

47 故四代 清水六兵衛 草花圖飾皿

(明治四十年頃)

京都 清水 六兵衛氏藏

祥麟と號す。父の業をつぎ、大正九年歿す。行年七十三。

48 清水六兵衛 青華百日紅圖花瓶

(昭和二年)

京都 作 者藏

(第八回帝展出品)

明治八年京都生。父四代六兵衛に製陶を、幸野襟領に繪畫を學ぶ。帝國美術院會員、フランスサ
ロン推會員。

49 澤田 宗山 白雲瓷花瓶

京都 作 者藏

明治十四年京都に生る。京都美術工藝學校および東京美術學校を出づ。舊帝展審査員、

50 故 白井半七 紋手茶入

東京 澤田 信夫氏藏

今戸襷の製作者にも斯の名作がある。

51 故初代 諏訪蘇山 青瓷紅魚花入

正木 直彦氏藏

京都の名工。大正六年、帝室技藝員に任命され、大正十一年歿、享年七十二。

52 故三代 清風與平 染付玉堂富貴圖花瓶

京都 清風 與平氏藏

古青磁の模製に長じ、その他青華磁器などに妙を得。明治二十六年帝室技藝員に擧げらる。

53 故 竹本隼太 辰砂手花瓶

東京帝室博物館藏

嘉永元年深川に生る。家は世々旗本であつた。父要齋と尾張風の古窯を築きしが、明治五年の頃には家財を蕩盡し、苦心經營の結果、洋風の窯法により神妙の域に達せんとしたが、明治二十五年歿した。年四十五。

54 故 沈壽官 色繪紗綾文雪輪花實花瓶

一個

東京帝室博物館藏

豊臣秀吉朝鮮征伐の際、携へ來つた十七姓の一族。維新後薩摩の陶業著しく荒廢したるを見、沈はこれが再興をはかり、かつ外國貿易品としての陶器が、一時外人の厭惡を招いたのを慨き、これ薩摩陶器の本色を閑却したによるとなし、百方苦心の末、古器に髣髴たる類器を製出するを得たといふ。

55 富本 憲吉 染附繪替皿附草花繪卷

(昭和五年)

侯爵 細川護立氏藏

(第五回國畫會出品)
明治十九年奈良縣生れ、明治四十二年東京美術學校を卒業、イギリスへ留學、國畫會員、帝國美術院會員。

56 故先代 中村秋塘 菊花繪花瓶

石川縣藏

慶應元年大聖寺に生る。竹内吟秋に學び、父祖の業をつぎて作陶す。昭和三年歿す、歳六十四。

七寶燒青磁色鳳凰圖香爐

(明治四十一年)

京都 並河茂樹氏藏

京都の七寶製作家、明治二十九年帝室技藝員に任命さる、昭和二年歿、年八十二。

58 松本 佐平 玉堂富貴花瓶

松本 佐太郎氏藏

金澤の陶工

59 故 三浦乾也 陶製鷺嵌額

一面

東京帝室博物館藏

伯父井田吉六に陶法を學び、後吉六と共に西村龍庵につきて乾山燒の法を受け、乾也の號を許さる。また小川破立に倣ひ、陶器をもつて動植物を製してこれを漆器中に嵌入了。明治二十二年歿、行年六十九。

60 故初代 三浦竹泉 寶玉嵌青華石榴子畫盆

大阪 磗谷吉次郎氏藏

61 故先代 宮川香山 青磁浮牡丹花瓶

道八の門に出でて出藍の譽あり。模造に巧みにして、最も青華磁器に長ず。

一個

東京帝室博物館藏

横濱に住して窯業を営み、外國へ美術陶器を輸出す。良瓷を出して雜器を作らず、名譽あり。大正五年歿、年七十五。

④ 漆

工

62 故 赤塚自得 蒔繪竹林文台硯

(大正十三年頃)

長岡 山口健造氏藏

明治四年東京生。父祖について蒔繪をなす。日本畫を狩野久信に、洋畫を白鳥會研究所に學ぶ。帝國美術院會員、昭和十一年歿、年六十六。

63 故 池田泰眞 果物蒔繪重箱

東京 鍋木清方氏藏

初號景哉。柴田是眞の門に入り、常に師を助けて漆藝の改良發明をなす。帝室技藝員を命ぜらる。明治三十六年歿、年七十九。

64 磯井 如眞 彫漆鼓箱

(昭和六年)

伯爵 松平頼壽氏藏

(第十二回帝展出品)

現に高松市香川縣工業學校教師たり。

65 故 植松包美 蒔繪朗詠硯箱

長野 飯島正一氏藏

明治五年東京に生る。蒔繪を植松抱民に學び、遂に帝展審査員となる。昭和八年歿、年六十二。

66 大垣 昌訓 棕梠蒔繪軸盆

金澤 作 者藏

金澤の漆工。現存す。

67 故 小川松民 金地浮線綾蒔繪香合

東京帝室博物館藏

江戸の人。弘化四年日本橋に生る。蒔繪師中山胡民の門に學ぶ。古名作の模造に妙を得。明治二十三年東京美術學校に奉職す。明治二十五年歿、年四十五。

68 故 川之邊一朝 藤牡丹蒔繪手箱

東京帝室博物館藏

淺草に生れ、蒔繪を武井藤助に學び、後獨立して一朝と號す。東京美術學校教授、帝室技藝員たり。明治四十三年歿、年八十一。

69 故 迎田秋悦 杉藤の硯箱

大阪 岸本 吉左衛門氏藏

明治十四年大阪に生る。父に蒔繪漆藝を習得し、三宅吳曉、淺井忠の指導を受く。昭和八年歿、年五十三。

70 故 澤田宗澤 悉研出山水畫硯箱

石川 縣藏

蒔繪家、金澤の人、明治大正を代表すべき名工の一人で三代あり。これは初代である。大正四年歿、享年八十六。二代は長男三代は次男が繼いだ、いづれも早世して今は家統全く絶ゆ。

71 故 柴田是眞 蓮池鴨蒔繪額

東京 帝室博物館藏

江戸の人。文化四年生。宮彫刻師の男、繪畫蒔繪共に優れ、明治初期の大家。帝室技藝員に列せらる。明治二十四年歿、年八十五。

72 故 白山松哉 蘭奢待香桶

東京 正木直彦氏藏

明治における代表的蒔繪師。嘉永六年生。江戸旗下の士なり。蒔繪を小林好山に學ぶ。明治三十八年東京美術學校教授となり、三十九年帝室技藝員に列せらる。大正十二年歿、年七十一。

73 故 杉林古香 書翰箱

京都 中澤岩太氏藏

淺井忠の圖案を漆藝に應用して有名。西川一草亭の弟。

74 堆朱 揚成 天狐之圖彫漆香盆

東京 作者藏

75 故 鶴田和三郎 卓

石川 縣藏

明治十三年東京生。舊帝展審査員、帝國美術院指定。加賀の漆工。各種の色漆塗等を發明しては海外輸出に貢献して、近代の名手である。大正十年歿、享年七十九。

76 前 大 峰 蟹と雜草沈金丸盆

石川縣 廣瀨嘉助氏藏

77 松田 權六 禽獸蒔繪手筈

東京 美術學校藏

明治二十九年石川縣に生る。東京美術學校を出で、同校助教となる。舊帝展審査員一回。帝國美術院指定、本品は美術學校の卒業製作である。

78 森川 紫山 雄齒 朶文様棚

東京 鹿島登善氏藏
明治十八年東京に生れ、川之邊一朝に師事す。舊帝展無鑑査、日本美術協會委員也。

79 吉田源十郎 トマトの圖棚

大阪 白川朋吉氏藏

明治二十九年高知縣に生る。舊帝展特選二回。

80 六角 紫水 曉天吼號之圖漆器手筥

(昭和五年)

作者藏

(第十一回帝展出品、帝國美術院賞)
慶應三年廣島縣生。明治二十六年東京美術學校卒業、外遊一回。東京美術學校教授、昭和五年帝國美術院賞を受く。帝國美術院參與。

⑤ 染

織

81 故二代 川島甚兵衛 加良錦百花紋様反物

京都 川島甚兵衛氏藏

京都の機業家。明治三十一年帝室技藝員となる。同四十三年歿。享年五十八。本錦は明治中期以後における代表的製作の一。

82 鹿島 英二 天鷲絨膈縷壁掛 (大鳥小鳥の圖)

(昭和六年)

中村裕次氏藏

(第十二回帝展出品)
明治七年鹿兒島縣生。東京高等工業學校卒業、外遊一回。東京高等工業および東京高等工藝教授。東京美術學校教授、帝國美術院指定。

83 故 佐々木清七 都錦壁掛 (原在京の下繪)

恩賜京都博物館藏

京都の織物製作家として名ある人。

84 龍村 平藏 漢の羅の壁掛 (昭和三年)

大阪 作者藏

(第九回帝展出品)
明治九年大阪に生る。舊帝展審査員二回。巴里サロン準會員。

85 故 伊達彌助 蝶模様壁掛 (銚見送)

京都 飯田新七氏藏

京都の織物製作家。明治二十三年第一回帝室技藝員を任命さる。明治二十五年歿す。

86 廣川松五郎

手織紬友禪染壁掛

(昭和九年)

東京 平塚 常次郎氏藏

(第十五回帝展無鑑査出品)

明治二十二年新潟縣生、大正二年東京美術學校を出づ。同校助教。舊帝展審査員、帝國美術院指定

87 山形駒太郎

染色壁掛湍流を溯る

(昭和八年)

東京 作 者藏

(第十四回帝展無鑑査出品)

明治十九年神戸生。白馬會研究所を出で、舊帝展無鑑査。

88 山鹿

清華

手織錦萌春圖壁掛

(昭和四年)

京都 作 者藏

(第十回帝展出品)

明治十八年京都生。神坂雪佳に師事。舊帝展審査員、帝國美術院指定。

⑥ 竹工、木工、其他

89 飯塚琅玕齋

花

籠

(昭和七年)

佐藤 銀氏藏

竹工、名は彌之助。舊帝展特選二回。

90 片岡源次郎

寒山拾得硯箱

東京美術學校藏

螺鈿嵌入師。旭と號す。芝山派にて意匠に長じ、花鳥の技は殊に巧である。

91 故 加納鐵哉

煎 茶 皆 具

大阪 林 成一氏藏

十七の年出家し、明治元年還俗して鐵哉と號す。明治七年上京して彫刻を業とす、また奈良に古
代什器を調査す。東京美術學校創立以來教鞭をとる。

92 木内 喜八

木象嵌波千鳥水車大火鉢

(明治三十年)

男 爵 大倉 喜七郎氏藏

深川佐賀町に生る。木内半古の父。木象嵌によりて名人喜八の名を得。明治三十五年歿、年七十
七。本器は喜八晩年製作中の注意すべきものの一。

93 故 木内半古

桑製瓜畑之圖象嵌料紙硯箱

(明治四十三年)

西川 平藏氏藏

(日本美術協會金賞牌)

喜八の子、木象嵌を以て一家をなし、更に名工として知らる。昭和八年歿、享年七十九。

94 故 野原貞明

葛二蟋蟀圖象嵌摺製手箱

東京美術學校藏

95 堀田 瑞松 唐木硯屏鞍馬毘沙門天圖

東京 巖谷三一氏藏
天保八年生。京都の人。木彫鐵筆に妙を得、又旁ら南畫を作る。防鐵織塗料を發明して專賣特許第一號を獲得せる人。大正五年歿、年八十。

96 堀田 瑞松 紫檀樓閣山水額

東京帝室博物館藏

97 山本 笙園 籠 器 局

大阪作 者藏

大阪の人竹工家として名あり。

98 故 川本半助 牛 子 童子

瀬戸 川本枡吉氏藏

瀬戸の名工の出品

99 故 加藤春岱 布 袋

瀬戸 清水重太郎氏藏

瀬戸の人、近代の名工。

100 故 藪 明山 花 瓶

大阪 藪 恒夫氏藏

嘉永六年兵庫に生る、大阪府下各工藝團體のために盡力す。

【追加】

故瀧 和亭 白鷺圖

兵庫 村山長泰氏藏

橋本 關雪 雨後の月

大阪 山口玄洞氏藏

故水野 年方 御殿女中

東京 竊木清方氏藏

横山 大觀 八仙花

（昭和八年）
名古屋 河田悦治郎氏藏

（淡交會出品）

昭和十二年五月二日印刷
昭和十二年五月七日發行

「明治、大正、昭和、三聖代」
名作美術展目錄

定價二十錢

不許複製

編輯兼發行
兼印刷者

大阪市中區中之島三丁目三番地
株式會社 朝日新聞社
大道弘雄

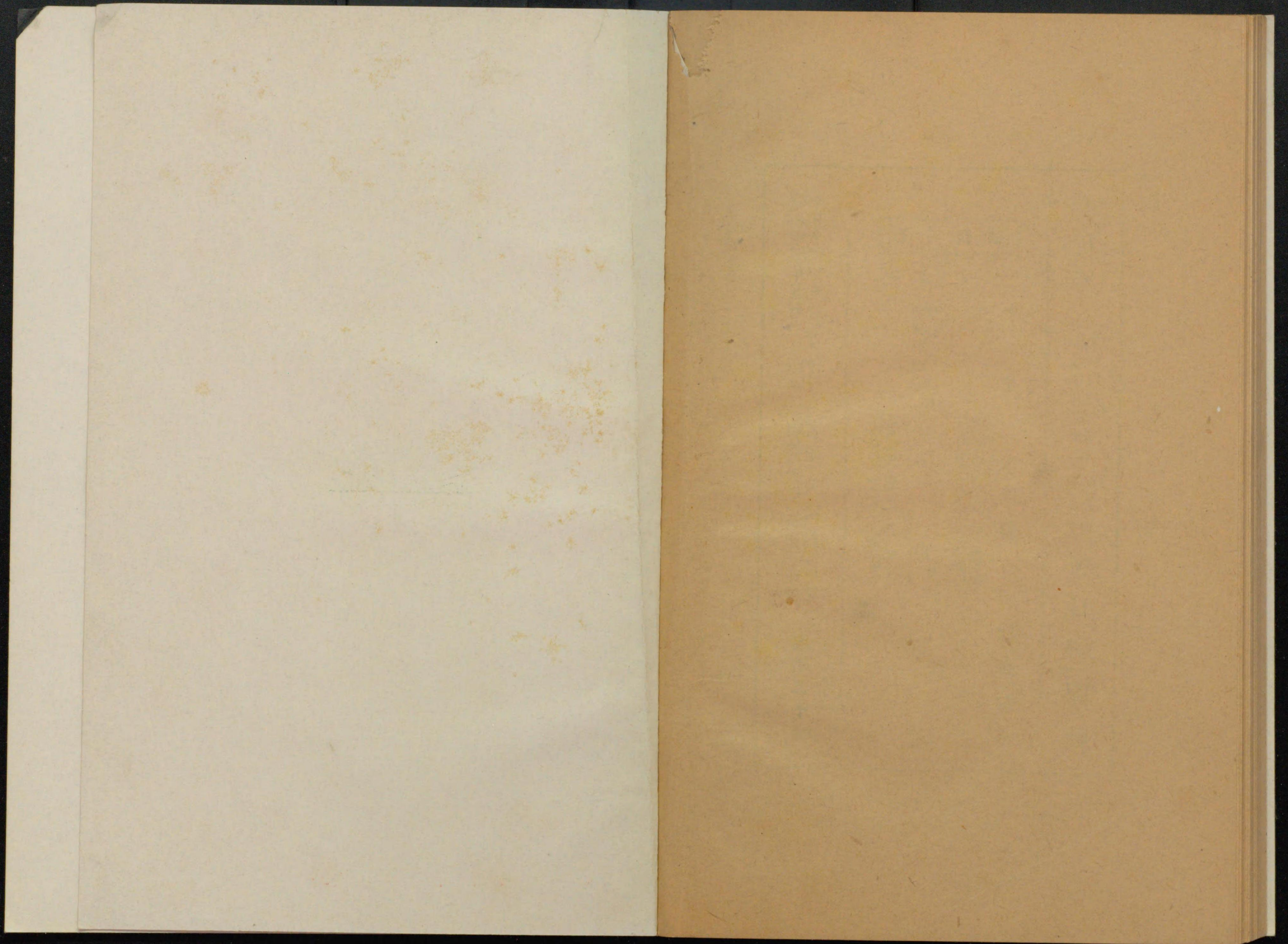
印刷所

大阪朝日新聞發行所

發行所

大阪市中區中之島三丁目三番地

株式會社 朝日新聞社



工+24-20



行發社聞新日朝

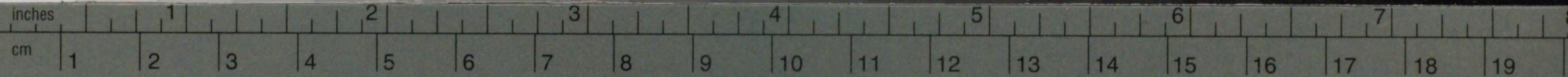


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

